

IOWebDOC
IOCELA マニュアル

<< 目次 >>

1	はじめに.....	4
1.1	IOCELAの概要.....	4
1.2	IOCELAの機能と構造.....	5
1.3	用語説明.....	6
1.4	画面操作に関する一般知識.....	7
2	操作方法.....	8
2.1	帳票作成.....	8
2.1.1	操作手順.....	8
2.1.2	プレビュー1.....	16
3	編集.....	20
3.1	操作手順.....	20
3.1.1	タイトルを大きくする.....	20
3.1.2	タイトル名を入力.....	23
3.1.3	タイトルの表示位置を変更.....	26
3.1.4	サブタイトルの編集.....	28
3.1.5	見出しの大きさを変更.....	31
3.1.6	見出し名を入力.....	33
3.1.7	データの大きさと定義名を変更.....	34
3.1.8	表示フォーマットを変更(データにカンマをセット).....	37
4	ブレイク設定.....	39
4.1	操作手順.....	39
4.1.1	ブレイク設定画面.....	39
4.1.2	個人名が変わったら金額の合計を表示.....	40
4.1.3	演算の設定.....	45
4.1.4	ブレイクした時のタイトルの設定.....	49
4.1.5	プレビュー2.....	53
4.1.6	課名が変わったら金額の合計を表示.....	54
4.1.7	演算設定.....	57
4.1.8	ブレイクした時のタイトルの設定.....	59
4.1.9	プレビュー3.....	63
4.1.10	部名が変わったら金額の合計を表示.....	64
4.1.11	演算設定.....	67
4.1.12	ブレイクした時のタイトルの設定.....	69
4.1.13	プレビュー4.....	73
4.1.14	金額の総合計を表示.....	74
4.1.15	帳票出力時に総合計のタイトルを表示.....	75
4.1.16	帳票の用紙サイズ設定.....	80
4.1.17	プレビュー5.....	81
5	画面説明.....	82
5.1	起動方法.....	82
5.1.1	起動.....	82
5.1.2	終了.....	82

5.2	初期画面	83
5.3	ファイル.....	84
5.3.1	新規作成	84
5.3.2	開く.....	85
5.3.3	上書き保存	86
5.3.4	名前を付けて保存	86
5.3.5	プレビュー.....	87
5.4	編集.....	89
5.4.1	ブロック追加.....	89
5.4.2	ブロック削除.....	90
5.4.3	ブロックコピー.....	91
5.4.4	項目属性変更.....	92
5.4.5	項目削除.....	93
5.5	表示.....	94
5.5.1	拡大	94
5.5.2	縮小	94
5.5.3	表示設定	95
5.6	設定.....	96
5.6.1	データ形式	96
5.6.2	計算式.....	98
5.6.3	ブレイク.....	99
5.6.4	自動項目	103
5.6.5	演算	105
5.6.6	ブロック	107
5.7	基本設定	112
5.7.1	用紙設定	112
5.7.2	フォント／行ピッチ	113
5.7.3	データ部行数	114
5.7.4	罫線表示	114
5.7.5	外枠罫線	115
5.7.6	デフォルト罫線設定	116
5.7.7	特定罫線設定	118
5.7.8	斜線罫線	120
5.7.9	網掛け設定	121
5.7.10	ヘッダー／フッター表示.....	122
5.7.11	単位設定	123
5.7.12	項目制御	124
5.7.13	ページ分割	125
6	構成図	126
6.1	IOCELAの構成図.....	126
7	使用上のヒントおよびエラーメッセージ	127
7.1	ブレイクと演算の定義を設定する	127
7.1.1	ブレイク設定.....	127
7.1.2	演算の定義.....	127
7.2	ページや年月日を表示する	127

7.3 何もないところから、レイアウトを作る..... 127

1 はじめに

1.1 IOCELAの概要

IOCELAはデータベースやスプレッドシートのデータの様な項目数が不定のテキストデータから、表形式の帳票を作成するためのツールです。

IOCELAの構成は、「1.2 IOCELAの機能と構造」に記載してあります。

帳票を作成するための定義は、画面から設定して「定義ファイル」に保存します。

定義ファイルは

- 帳票の全体的なレイアウト
- データファイルの形式
- 各項目の表示位置
- 各項目の表示方法

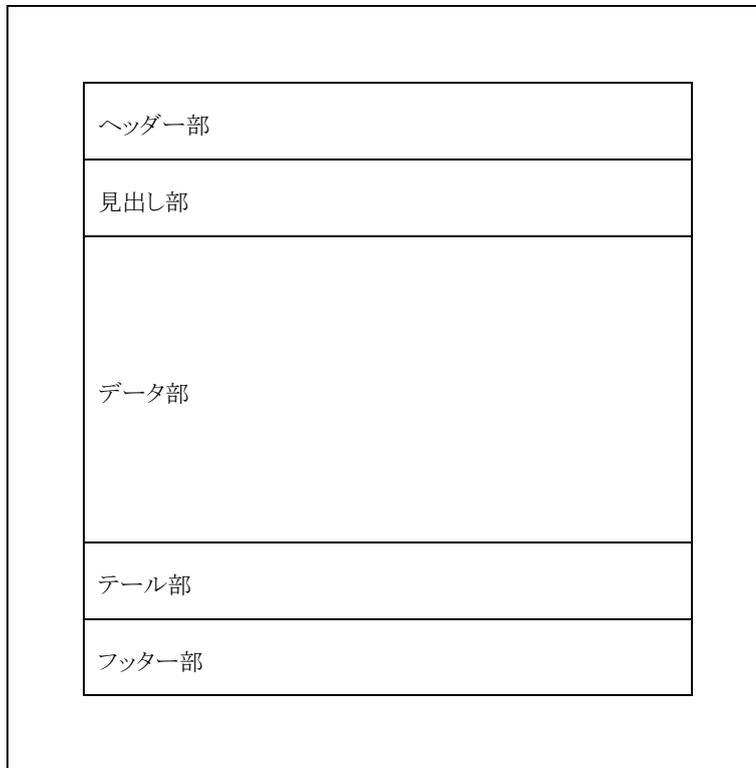
の4項目の定義が記述してあります。

なお、定義ファイルの内容は、定義情報の共通右分を抽出し、共通に使用する情報です。情報としては、書体、文字の大きさ、線種等があります。

データファイルは、フィールドがデータ区切りの指定文字で決まる【可変長レコード】とフィールドがカラム位置で決まる【固定長レコード】に対応します。

1.2 IOCELAの機能と構造

IOCELAによって作成される帳票は【ヘッダー部】、【見出し部】、【データ部】、【テール部】、【フッター部】の5つのブロックから構成されます。



- ヘッダー部……帳票のタイトル、年月日、ページを表示
- 見出し部……データ部の各項目説明を表示
- データ部……データファイルの内容を表示
- テール部……合計、平均等を表示
- フッター部……合計、脚注、タイトル等を表示

なお、1つの帳票に上記の5つのブロックが必ずしも必要ではありません。
データ部以外のブロックは、複数個の定義が可能です。

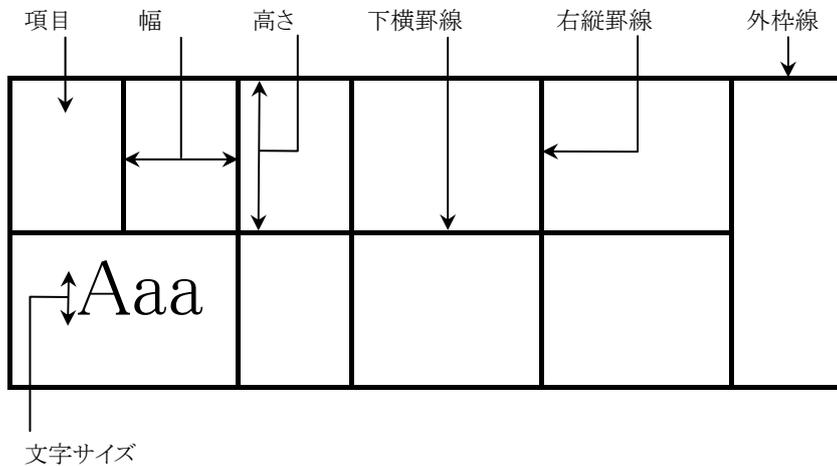
各ブロックは、それぞれ複数枚の帳票を作成するための定義指定から構成され、項目の位置または他の項目との相対位置、幅、高さを指定する事により、帳票のレイアウトを作成します。

帳票をより分かりやすくするために、データの表示形式(複数行表示)、項目を取り囲む罫線の線種、線幅や網掛けパターン等の指示をすることができます。

また、帳票出力されるテキストパターンデータの形式を動的に参照し、データ長に応じて項目の行数を複数行表示、フォントサイズの自動変更、横、列計算や縦列計算(小計、合計)等の機能があります。

1.3 用語説明

この操作説明書の中で使用している全ブロック【ヘッダー部】、【見出し部】、【データ部】、【テール部】、【フッター部】共通の用語の説明を下記に記述します。



- 1) 項目 : 個々のデータ等を表示する領域
- 2) 幅 : 項目の幅
- 3) 高さ : 項目の高さ
- 4) 下横罫線 : 項目ごとの下側の罫線
- 5) 右縦罫線 : 項目ごとの右側の罫線
- 6) 外枠罫線 : 帳票を取り囲む外枠の罫線
- 7) 文字サイズ : 表示する際の文字の高さ
- 8) 行ピッチ : 表示する際の行の高さ

1.4 画面操作に関する一般知識

- 機能の選択

画面上のメニューバーにマウスカーソルを移動し、マウスの左ボタンをクリックするとそのプルダウンメニューが開きますので、その中から選択します。

画面上のメニューバーとは、メニュー名が表示されている以下の部分です。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(S) 基本設定(Q) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

- 対象の選択

操作の対象となるものが複数ある場合、プルダウンメニューが表示されます。

対象としたいものの上にマウスカーソルを移動し、左クリックしてください。

以下はメニューバーのファイルをクリックしたところです。

ファイル(F)	編集(E)	表示(V)	設定(S)	基本設定(Q)	ウィンドウ(W)	ヘルプ(H)
新規作成(N)			Ctrl+N			
開く(O)...			Ctrl+O			
閉じる(C)						
上書き保存(S)			Ctrl+S			
名前を付けて保存(A)...						
プレビュー(V)						
1 D:\yss\...\%locela1.def						
2 D:\yss\...\%locela0424.def						
アプリケーションの終了(X)						

- 「作成」ボタン

「作成」ボタンはその上の位置に表示されているリストに新しいものを追加することを意味します。

- 編集ボタン

編集ボタンはリストにある要素に対して、何らかの操作を行うことを意味します。

リストから対象を選択し、行いたい編集操作のボタンを左クリックします。

編集操作には次のようなものがあります。

- 削除 : 選択された対象をリストから削除します。
- コピー : 選択された対象のデータを一時的に保管します。
選択された対象に対しては、何の影響もありません。
- ペースト : コピーによって一時的に保管されているデータを挿入します。

- 「設定」ボタン

数字、文字等の入力や、リストで選択されている対象の属性を設定します。

- ▼ ボタン

マウスの左ボタンでクリックするとリストボックスやコンボボックスのリストを表示し、その中の1つを選択することができます。

2 操作方法

2.1 帳票作成

ここではIOCELAで帳票を作成する方法を具体的に説明します。

一度、手順に沿って操作していただくことによって、帳票作成の方法を理解していただけるものと思います。

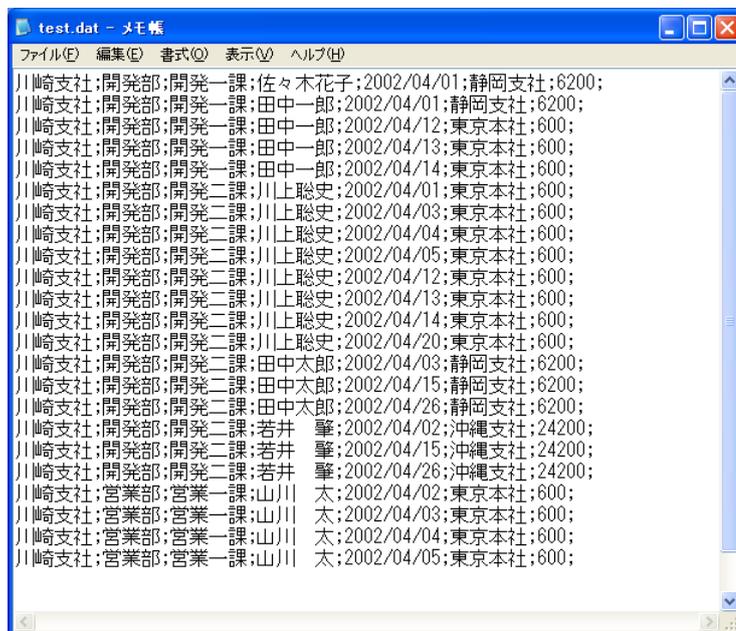
なお、個々の詳細な操作説明については、「5. 画面説明」をご覧ください。

2.1.1 操作手順

1) 本章では、図1-1のデータから図1-2の帳票を作成することを目標とします。

データは、「Excel」等で、通常取り扱われる形式のデータです。

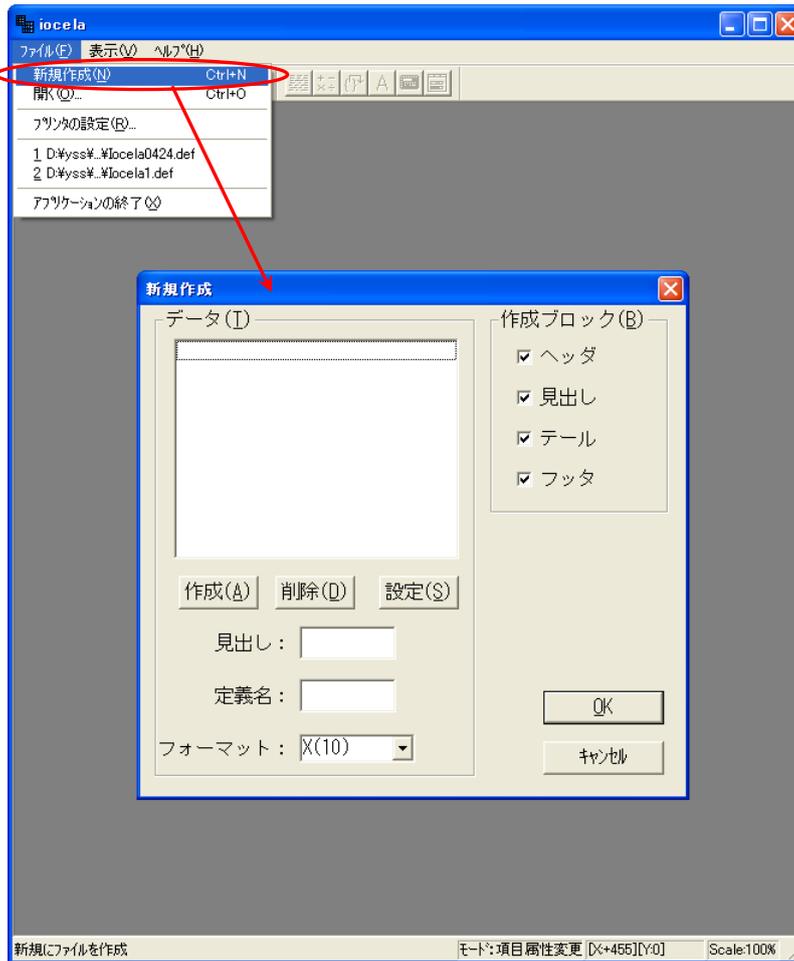
図1-1 データ



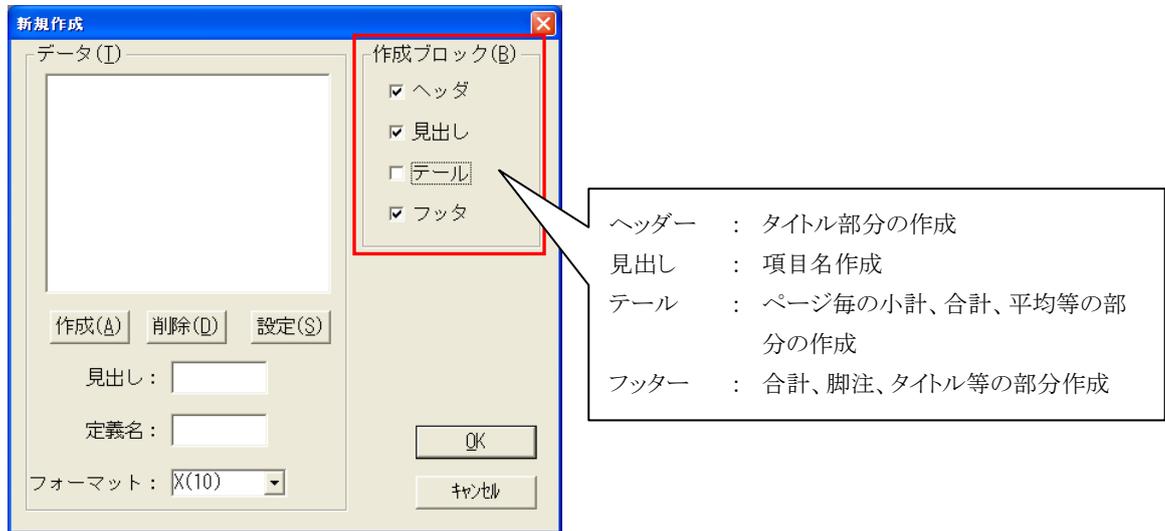
2) IOCELAを起動すると、「初期」画面が表示されます。



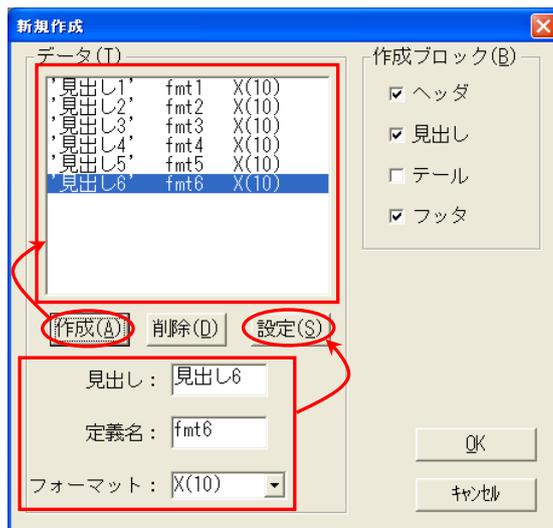
- 3) メニューバーのファイル→[新規作成]を選択してください
「新規作成」画面が表示されます。



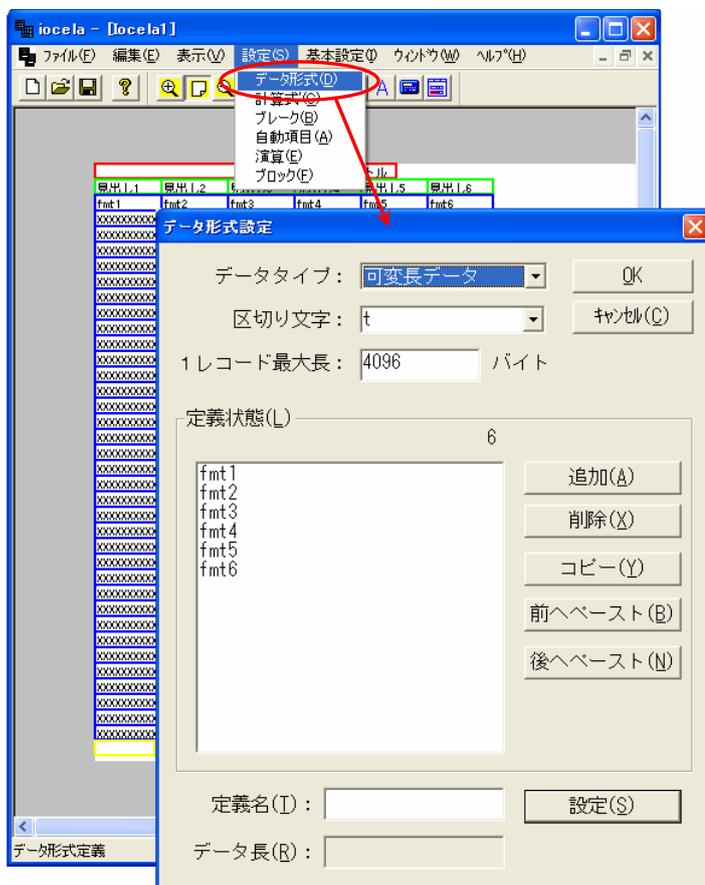
- 4) [作成ブロック]で目的とするブロックをチェックします。
 この時、チェックボックスに✓印が表示されているブロックが作成されます。
 ここではテール部を必要としないので、[テール]の✓印を外してください。



- 5) データはデータ部です。
 「作成」ボタンをクリックする毎に1つつ作成され、データのリストに表示されます。
 ここでは見出しとして、6個作成してください。
 作成すると同時に下の[見出し]、[定義名]、[フォーマット]にそれぞれの項目名が表示されます。
 変更する場合は、変更するデータを選択し、入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックしてください。
 削除する場合はデータから削除するデータを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。
 必要な作業を終了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。



- 7) 作成した帳票にデータを表示させるためにデータ形式の設定を行います。
メニューバーの設定→[データ形式]を選択してください。
「データ形式設定」画面が表示されます。



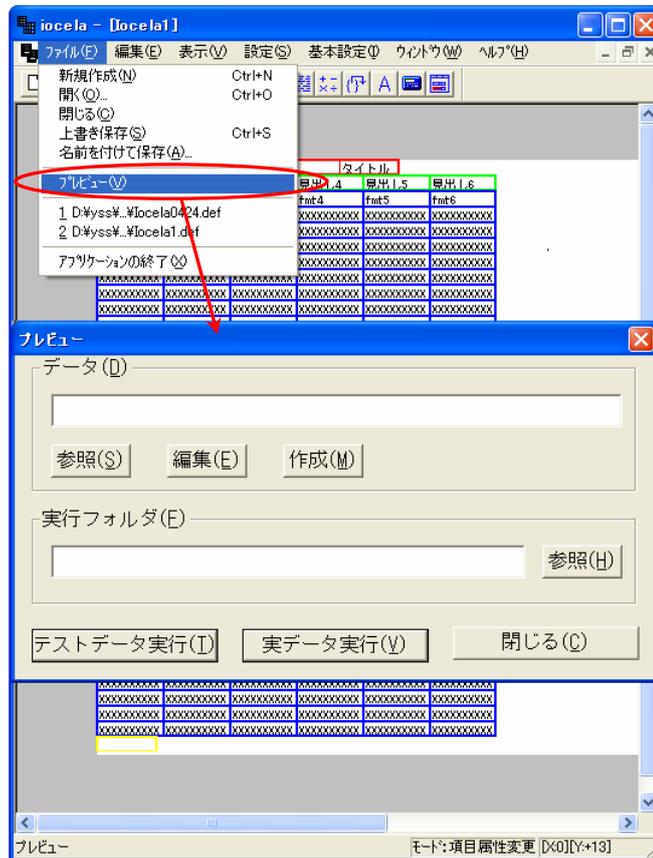
- 9) 区切り文字のコンボボックスにデータの区切り文字の「;」を入力して「OK」ボタンをクリックすると、設定が反映し、画面が終了します。

注意

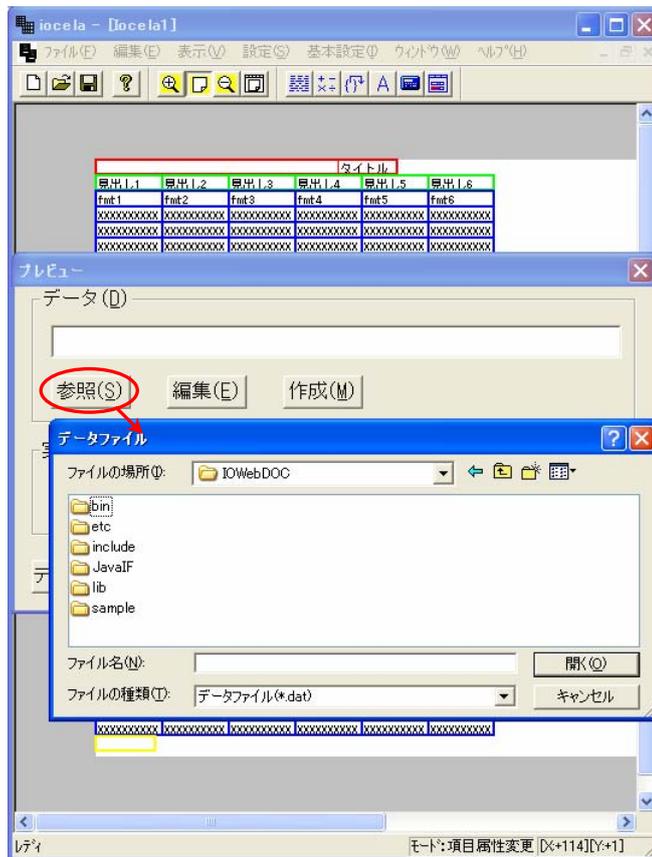
ここでは帳票にデータを表示するためだけの説明です。
「データ形式設定」画面の詳細については、「5.6.1 データ形式」をご参照ください。

2.1.2 プレビュー1

- 1)メニューバーのファイル→[プレビュー]を選択してください。
「プレビュー」画面が表示されます。

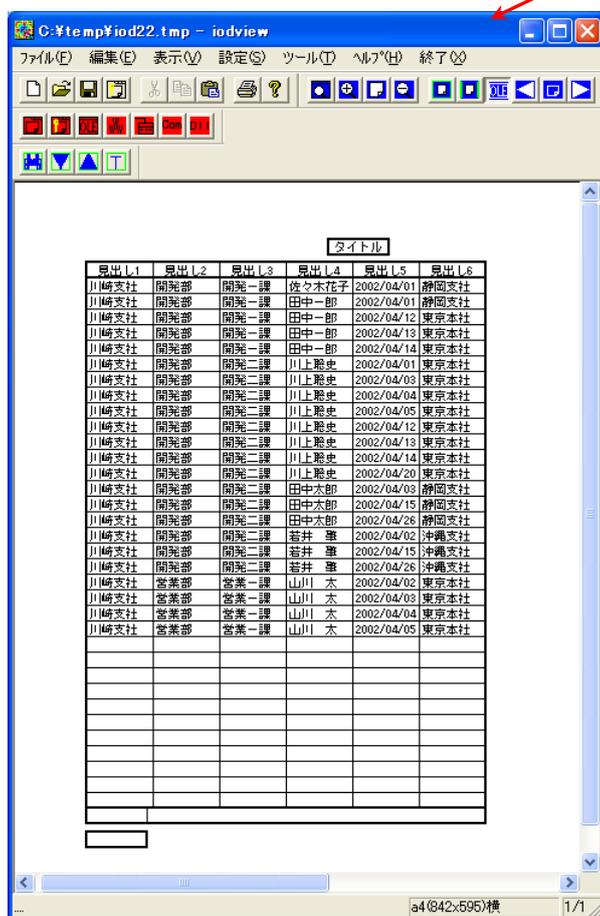


3) [データ]の「参照」ボタンをクリックすると、「データファイル」画面が表示されます。



4) 表示させるデータファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。
「プレビュー」画面のデータに選択したファイルのパスとファイル名が表示されます。
参照を取り消す場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

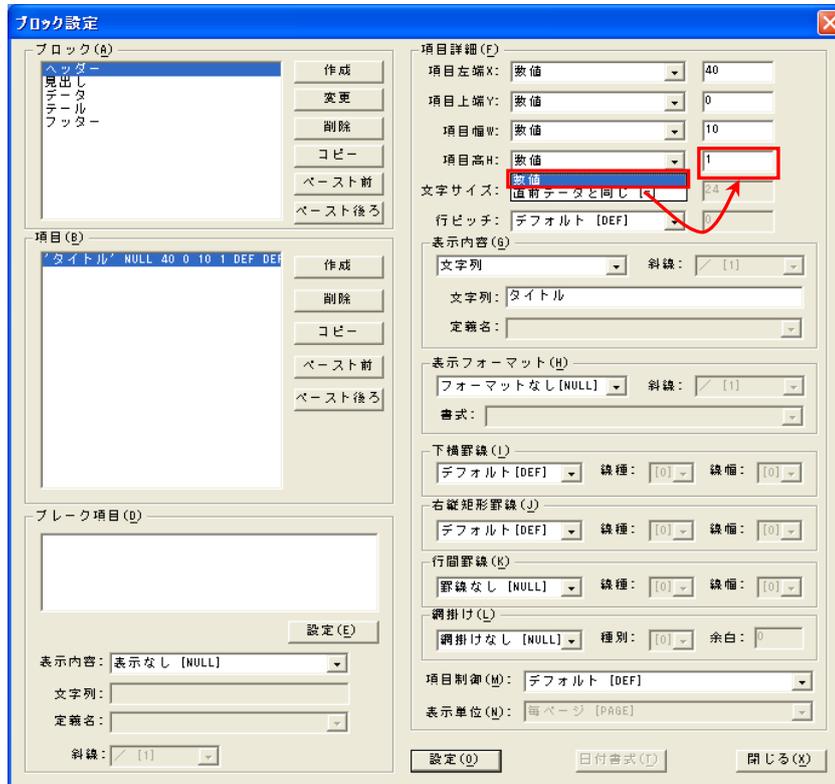
- 5) データファイル選択後、「実データ実行」ボタンをクリックすると、データが埋め込まれている帳票のプレビューが表示されます。



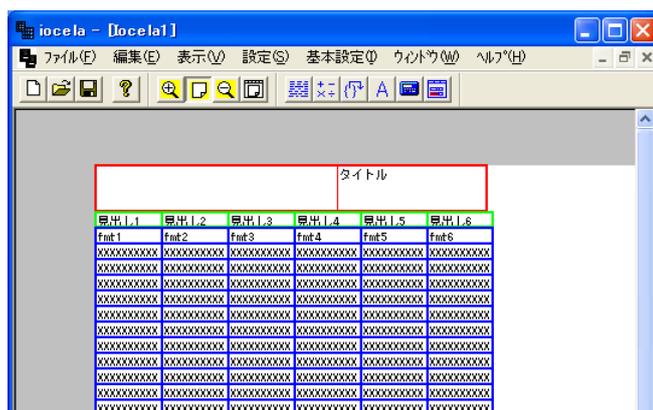
- 2) [項目幅] のリストボックスから [数値] を選択してください。
[項目幅] の入力フィールドが有効になります。「25」を入力してください。
単位の初期値は文字数(分)となります。

The screenshot shows the 'Block Settings' (ブロック設定) dialog box. The 'Item Details' (項目詳細) section is active, showing various configuration options. The 'Item Width' (項目幅) dropdown menu is highlighted with a red box, and a red arrow points to the '25' value entered in the adjacent input field. Other settings visible include 'Item Left Margin' (項目左端) set to 40, 'Item Top Margin' (項目上端) set to 0, 'Item Height' (項目高) set to 1, and 'Text Size' (文字サイズ) set to 25. The 'Display Content' (表示内容) section shows 'Text List' (文字列) set to 'Title' (タイトル). The 'Display Format' (表示フォーマット) section shows 'Format None' (フォーマットなし) selected. The 'Bottom Line' (下横罫線) section shows 'Default' (デフォルト) selected. The 'Right Rectangle Line' (右縦罫線) section shows 'Default' (デフォルト) selected. The 'Horizontal Line' (行間罫線) section shows 'No Line' (罫線なし) selected. The 'Grid' (罫掛け) section shows 'No Grid' (罫掛けなし) selected. The 'Item Control' (項目制御) section shows 'Default' (デフォルト) selected. The 'Display Unit' (表示単位) section shows 'Page' (ページ) selected.

- 3) [項目高]のリストボックスから[数値]を選択してください。
 [項目高]の入力フィールドが有効になります。「3」を入力してください。
 単位の初期値は文字数(分)となります。

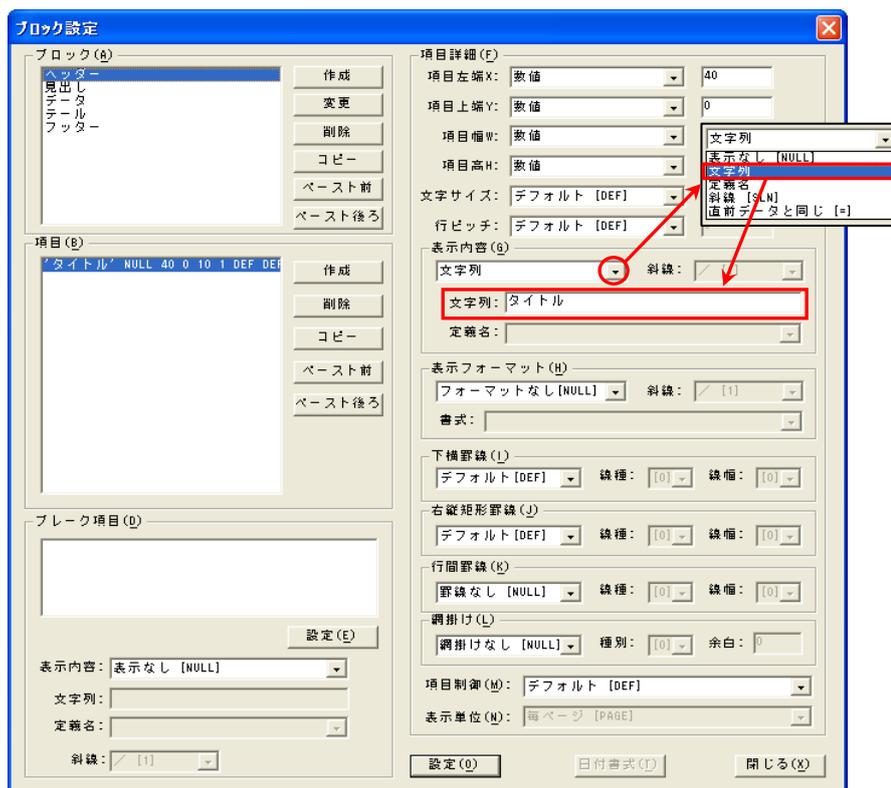


- 4) 「ブロック設定」画面で項目詳細の修正後、「設定」ボタンをクリックしてください。
 タイトルの大きさが変更されます。
 「閉じる」ボタンをクリックすると、「ブロック設定」画面が終了し、以下のようになります。



3.1.2 タイトル名を入力

- 1) メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のタイトル部のブロックをクリックしてください。
ブロックはヘッダーが選択され、項目はクリックしたタイトルが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
(「3.1.1 タイトルを大きくする」と同じ手順です。)
タイトル名を入力するには、表示内容の[文字列]と項目詳細の[文字サイズ]を変更します。
- 2) 表示内容のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になります。「営業所別表」を入力してください。



- 4) [文字サイズ]のリストボックスから[数値]を選択してください。
[文字サイズ]の入力フィールドが有効になります。「20」を入力してください。

ブロック設定

ブロック (B)

- ヘッダー
- 見出し
- テーブル
- フッター

作成

変更

削除

コピー

ペースト前

ペースト後

項目 (C)

'営業所別表' NULL 40 0 25 3 20 DE

作成

削除

コピー

ペースト前

ペースト後

ブロック項目 (D)

設定 (E)

表示内容: 表示なし [NULL]

文字列:

定義名:

斜線: / [1]

項目詳細 (F)

項目左端 X: 数値 40

項目上端 Y: 数値 0

項目幅 W: 数値 25

項目高 H: 数値 3

文字サイズ: 数値 20

行ピッチ: デフォルト [DEF]

表示内容 (G) (印刷データと同じです)

文字列: 営業所別表

定義名:

表示フォーマット (H)

フォーマットなし [NULL]

斜線: / [1]

書式:

下横罫線 (I)

デフォルト [DEF]

線種: [0]

線幅: [0]

右縦罫線 (J)

デフォルト [DEF]

線種: [0]

線幅: [0]

行間罫線 (K)

罫線なし [NULL]

線種: [0]

線幅: [0]

網掛け (L)

網掛けなし [NULL]

種別: [0]

余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O)

日付書式 (P)

閉じる (X)

3.1.3 タイトルの表示位置を変更

- 1) メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のタイトル部のブロックをクリックしてください。
ブロックはヘッダーが選択され、項目はクリックしたタイトルが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
(「3.1.1 タイトルを大きくする」と同じ手順です。)
タイトルの表示位置を変更するには、項目詳細の[項目左端 X]と[項目上端 Y]を変更します。
- 2) [項目左端 X]のリストボックスから[数値]を選択してください。
[項目左端 X]の入力フィールドが有効になります。「0」を入力してください。

ブロック設定

ブロック (A)

ヘッダー
見出し
データ
タイトル
フッター

作成
変更
削除
コピー
ペースト前
ペースト後

項目 (B)

'営業所別表' NULL 40 0 25 3 20 DE

作成
削除
コピー
ペースト前
ペースト後

ブレイク項目 (D)

設定 (E)

表示内容: 表示なし [NULL]

文字列:
定義名:

斜線: / [1]

項目詳細 (F)

項目左端 X: 数値 0

項目上端 Y: 数値 0

項目幅 W: 25

項目高 H: 3

文字サイズ: 20

行ピッチ: デフォルト [DEF] 0

表示内容 (G)

文字列: 斜線: / [1]

文字列: 営業所別表
定義名:

表示フォーマット (H)

フォーマットなし [NULL] 斜線: / [1]

書式:

下横罫線 (I)

デフォルト [DEF] 罫線種: [0] 罫線幅: [0]

右縦矩形罫線 (J)

デフォルト [DEF] 罫線種: [0] 罫線幅: [0]

行間罫線 (K)

罫線なし [NULL] 罫線種: [0] 罫線幅: [0]

網掛け (L)

網掛けなし [NULL] 種別: [0] 余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

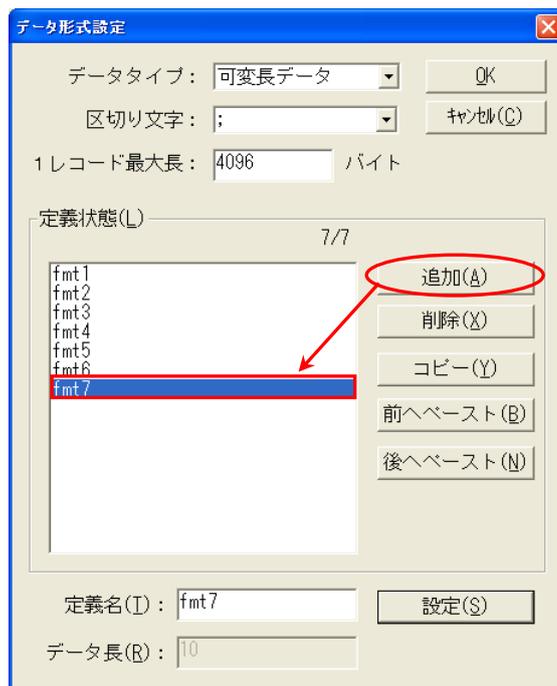
表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O) 日付書式 (P) 閉じる (X)

3.1.4 サブタイトルの編集

作成目標の帳票では、タイトルの右横位置に「川崎支社」が表示されています。
データファイルの1列目(川崎支社)がこの位置に定義付けられているからです。
定義付けは以下の手順で行ってください。

- 1)メニューバーの設定→[データ形式]を選択し、「データ形式設定」画面を表示してください。
定義状態の中にある「追加」ボタンをクリックします。
(データファイルの1列目、川崎支社を定義付けする為、新たにデータを追加します。)
「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

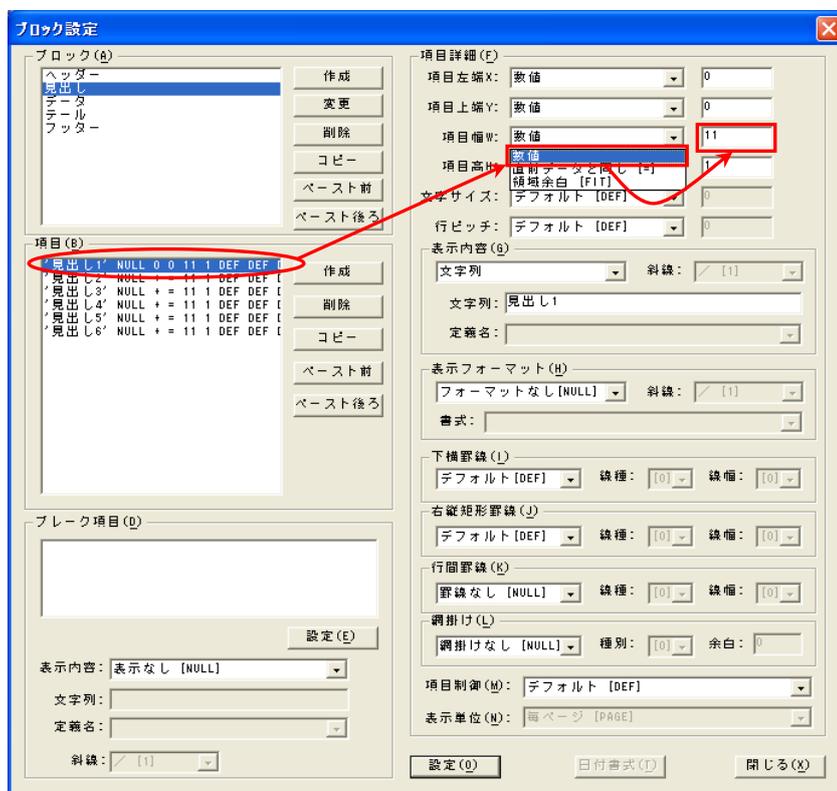


- 2)メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のタイトル部のブロックをクリックしてください。
ブロックはヘッダーが選択され、項目はクリックしたタイトルが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
(「3.1.1 タイトルを大きくする」と同じ手順です。)
サブタイトルの編集(新規作成及び大きさを変更等)には、項目を新規作成し、項目詳細の[項目左端 X]、[項目上端 Y]、[項目幅 W]、[項目高 H]、表示内容の[文字列]を変更します。

3.1.5 見出しの大きさを変更

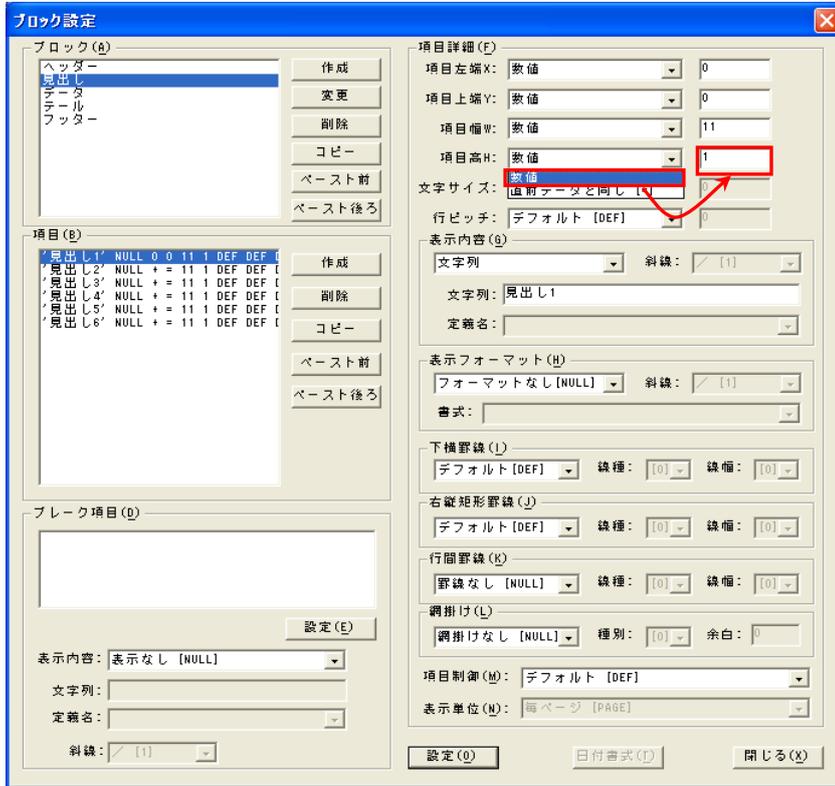
- 1)メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票の見出し部のブロックをクリックしてください。
 ブロックは見出しが選択され、項目はクリックした見出しが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
 見出しの大きさを変更するには、項目詳細の[項目幅 W]と[項目高 H]を変更します。
- 2)[項目]から変更したい行を選択してください。
 [項目幅 W]のリストボックスから[数値]を選択してください。
 [項目幅 W]の入力フィールドが有効になります。任意の数値を入力してください。

	見出し 1	見出し 2	見出し 3	見出し 4	見出し 5	見出し 6
数値	10	10	20	11	20	15

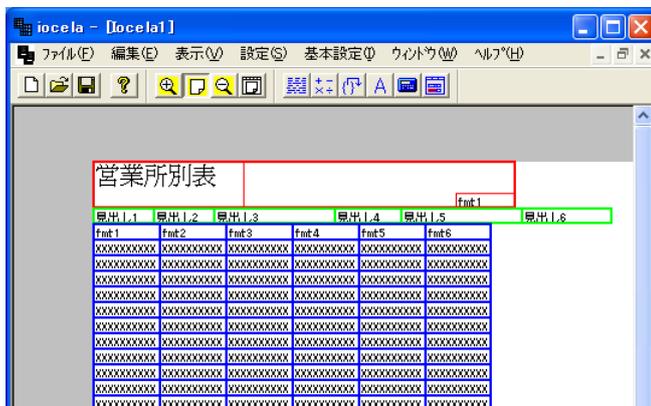


- 2) [項目高 H] のリストボックスから [数値] を選択してください。
 [項目高 H] の入力フィールドが有効になります。任意の数値を入力してください。

	見出し 1	見出し 2	見出し 3	見出し 4	見出し 5	見出し 6
数値	1	1	1	1	1	1



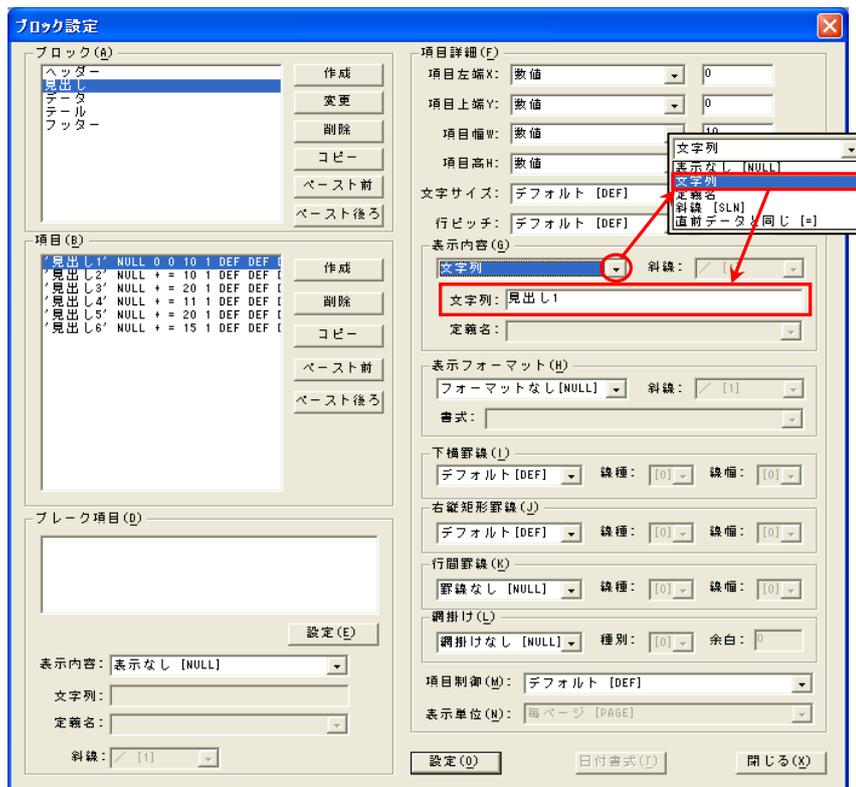
- 3) 「ブロック設定」画面で [見出し 1] ~ [見出し 6] の項目詳細をそれぞれ修正後、「設定」ボタンをクリックしてください。
 見出しの大きさが変更されます。
 「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了し、以下のようになります。



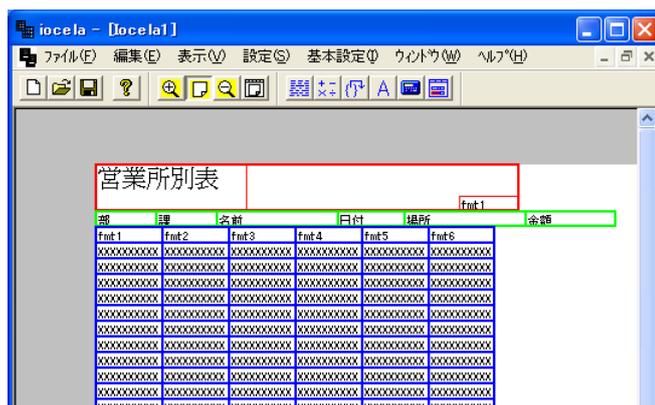
3.1.6 見出し名を入力

- 1)メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票の見出し部のブロックをクリックしてください。
ブロックは見出しが選択され、項目はクリックした見出しが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
見出し名を入力するには、表示内容の[文字列]を変更します。
- 2)[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になります。任意の文字列を入力してください。

	見出し 1	見出し 2	見出し 3	見出し 4	見出し 5	見出し 6
文字列	部	課	名前	日付	場所	金額



- 3)「ブロック設定」画面で[見出し 1]～[見出し 6]の表示内容を修正後、「設定」ボタンをクリックしてください。
見出しの内容が変更されます。
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了し、以下のようになります。



3.1.7 データの大きさと定義名を変更

- 1) メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のデータ部のブロックをクリックしてください。
 ブロックはデータが選択され、項目はクリックしたデータが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。
 データの大きさと定義名を変更するには、項目詳細の[項目幅 W]と[項目高 H]、表示内容の[定義名]を変更します。
- 2) [項目幅 W]のリストボックスから[数値]を選択してください。
 [項目幅 W]の入力フィールドが有効になります。任意の数値を入力してください。

	fmt1	fmt2	fmt3	fmt4	fmt5	fmt6
数値	10	10	20	11	20	15

ブロック設定

ブロック (B)

項目 (I)

ブロック項目 (D)

項目詳細 (E)

項目左端 X: 数値 0

項目上端 Y: 数値 0

項目幅 W: 数値 10

項目高 H: 数値 1

文字サイズ: デフォルト [DEF]

行ピッチ: デフォルト [DEF]

表示内容 (G)

定義名: fmt1

表示フォーマット (H)

フォーマット文字列 [SET]: X(10)

下補零線 (L)

デフォルト [DEF] 線種: [0] 線幅: [0]

右縦矩形零線 (J)

デフォルト [DEF] 線種: [0] 線幅: [0]

行間零線 (K)

零線なし [NULL] 線種: [0] 線幅: [0]

網掛け (L)

網掛けなし [NULL] 種別: [0] 余白: 0

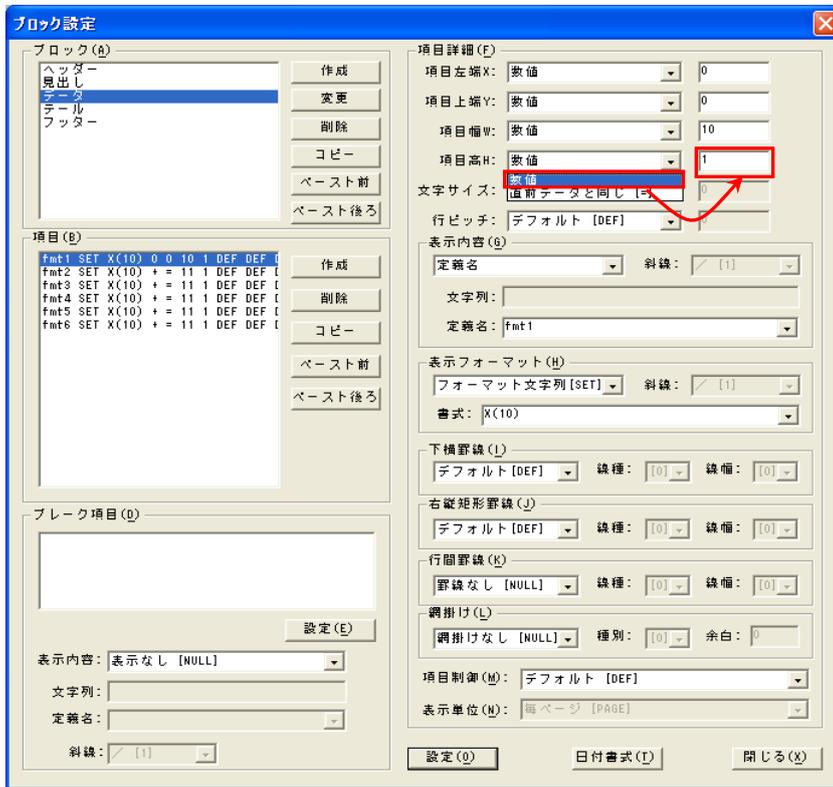
項目制御 (M): デフォルト [DEF]

表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O) 日付書式 (I) 閉じる (X)

- 4) [項目高 H] のリストボックスから [数値] を選択してください。
 [項目高 H] の入力フィールドが有効になります。任意の数値を入力してください。

	fmt1	fmt2	fmt3	fmt4	fmt5	fmt6
数値	1	1	1	1	1	1



4) [表示内容]のリストボックスから[定義名]を選択してください。

[定義名]のコンボボックスが有効になります。

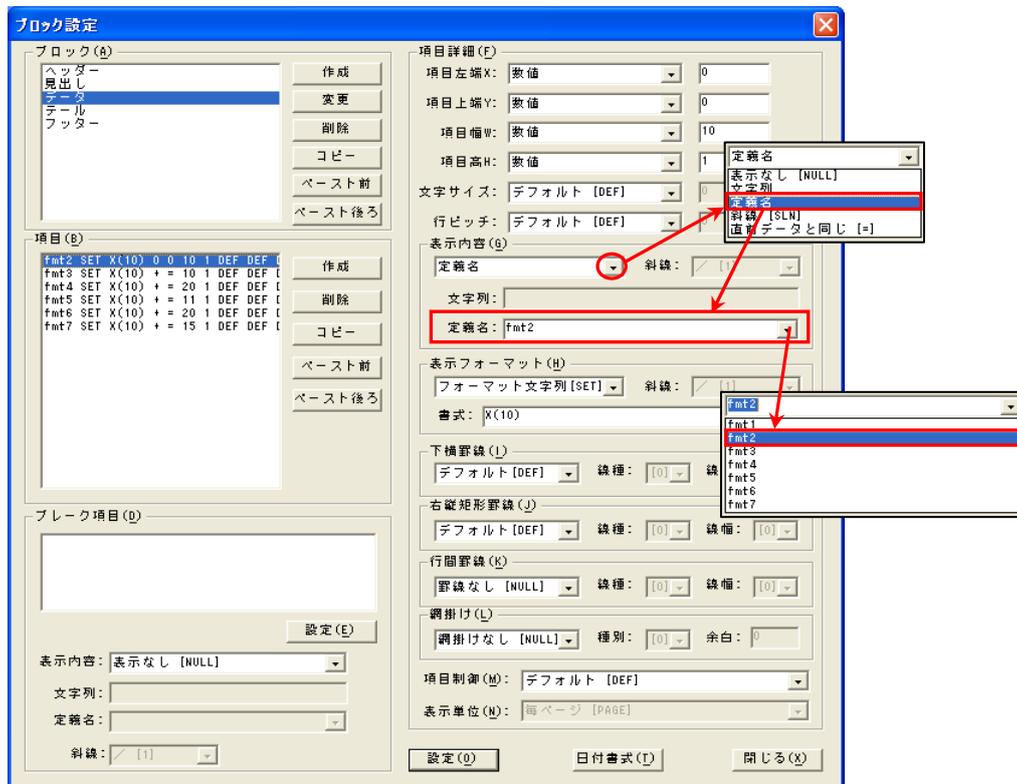
コンボボックスでは入力及びリストからの選択が出来ます。

リストにはデータ形式設定画面で作成したデータがリストに表示されます。

リストから任意のデータを選択してください。

※「3.1.4 サブタイトルの編集」で定義名:fmt1を追加したので、[表示内容]の定義名はfmt2以降から順次選択してください。

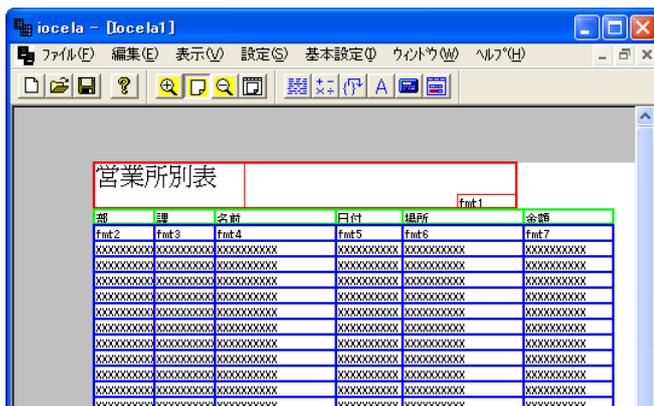
	fmt1	fmt2	fmt3	fmt4	fmt5	fmt6
定義名	fmt2	fmt3	fmt4	fmt5	fmt6	fmt7



5) 「ブロック設定」画面で[fmt1]～[fmt6]の項目詳細、表示内容をそれぞれ修正後、「設定」ボタンをクリックしてください。

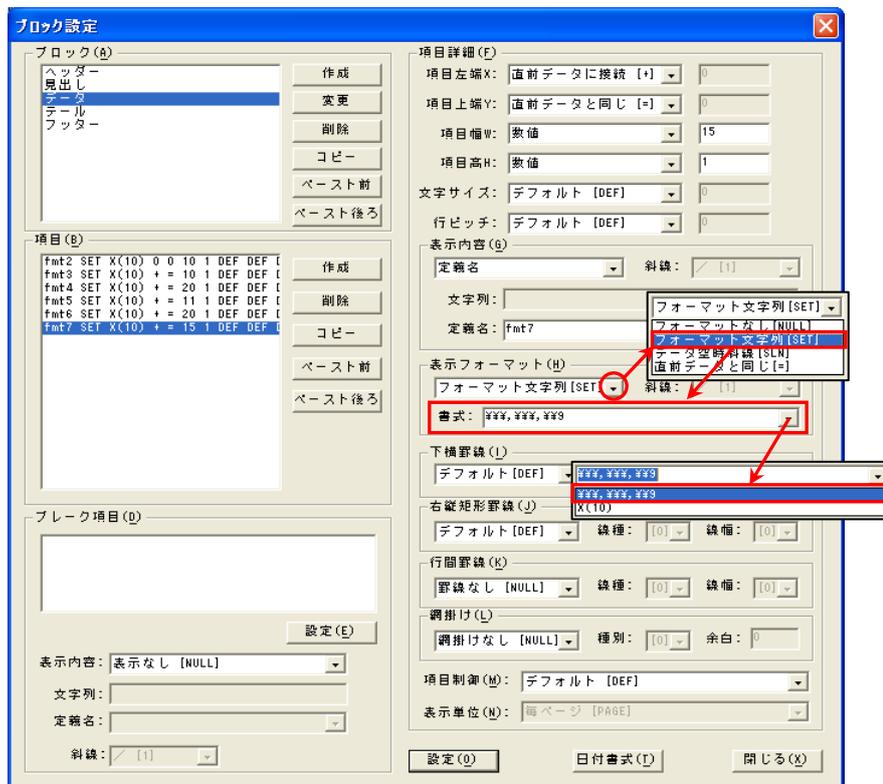
データの大きさと定義名が変更されます。

「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了し、以下のようになります。



3.1.8 表示フォーマットを変更(データにカンマをセット)

- 1) メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のデータ部のブロック「fmt7」をクリックしてください。
ブロックはデータが選択され、項目はクリックしたデータが選択された状態で[ブロック設定]画面が表示されます。
データにカンマをセットするには、表示フォーマットの[書式]を変更します。
- 2) 表示フォーマットのリストボックスから[フォーマット文字列]を選択してください。
書式のコンボボックスが有効になります。
コンボボックスでは入力及び選択が出来ますが、任意のフォーマット「¥¥¥,¥¥¥,¥¥9」を入力してください。
(一度入力された書式は登録され、次回選択時にクリックするとコンボボックスのリストに表示されます。)



2)「ブレイク設定」画面が表示されます。

ブレイク設定

ブレイクタイミング(A)

ブレイク定義名:

対象定義名:

改ページ設定(E)

対象定義名:

ブレイク詳細(D)

ブレイク名

定義名: 対象定義名:

上行罫線

特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

下行罫線

特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

網掛け

網掛けなし [NULL] 種別: [0] 間隔:

省略

する データ部項目番号:

作成(M) 削除(X) コピー(Y) ペースト前(B) ペースト後(N) 設定(S)

作成(L) 削除(Z) コピー(Q) ペースト前(4) ペースト後(5) 設定(R)

OK キャンセル(C)

4.1.2 個人名が変わったら金額の合計を表示

個人名が変わった時、その個人が使用した金額の合計値を、データ部に表示します。

1)ブレイクタイミングの「作成」ボタンをクリックすると、ブレイク定義名が作成されます。

ブレイク設定

ブレイクタイミング(A)

tmg1

ブレイク定義名: tmg1

対象定義名:

改ページ設定(E)

対象定義名:

ブレイク詳細(D)

ブレイク名

定義名: 対象定義名:

上行罫線

特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

下行罫線

特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

網掛け

網掛けなし [NULL] 種別: [0] 間隔:

省略

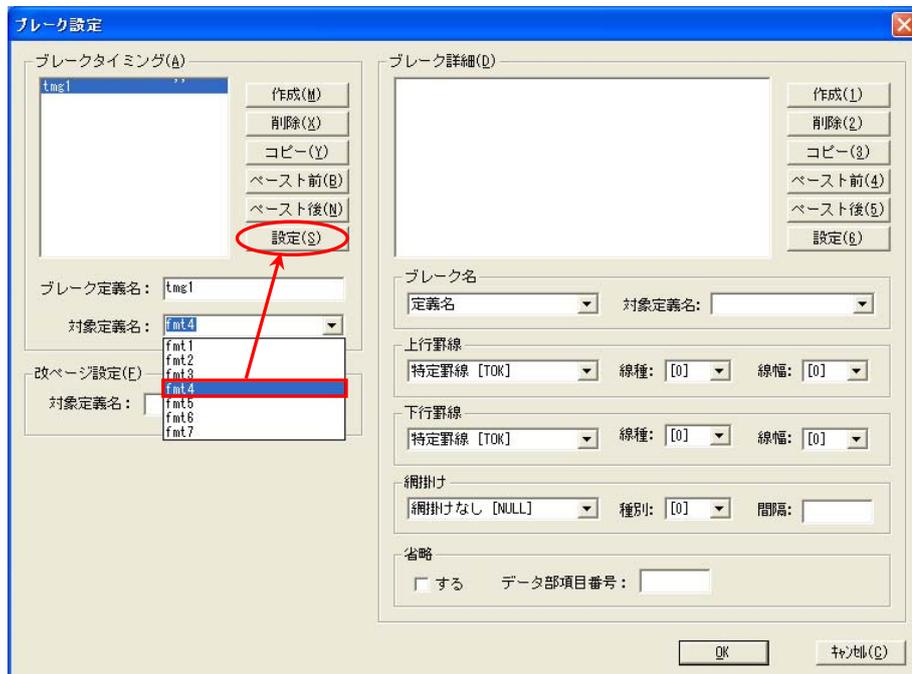
する データ部項目番号:

作成(M) 削除(X) コピー(Y) ペースト前(B) ペースト後(N) 設定(S)

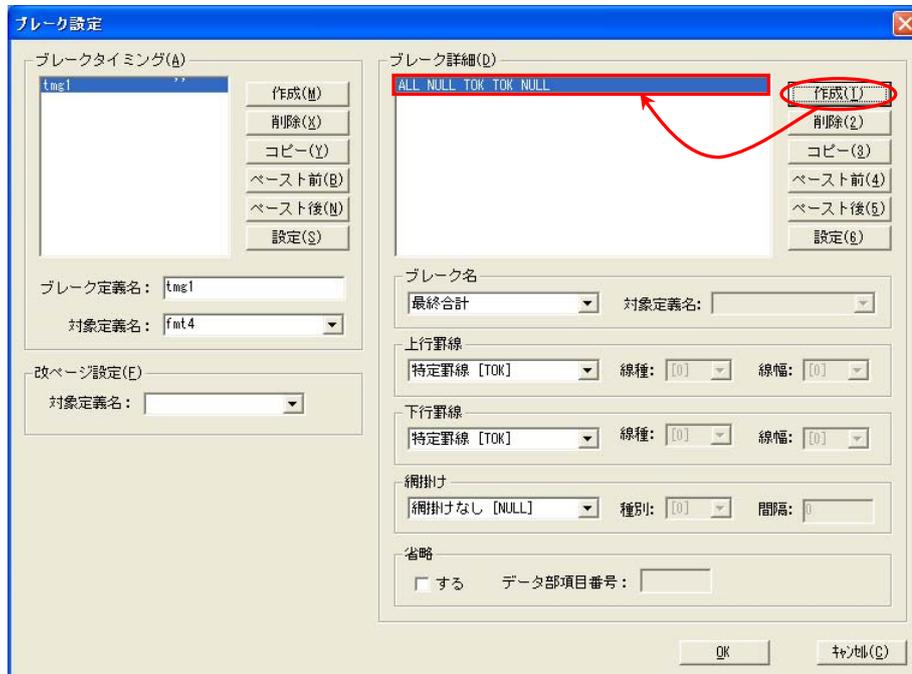
作成(L) 削除(Z) コピー(Q) ペースト前(4) ペースト後(5) 設定(R)

OK キャンセル(C)

- 2) [対象定義名]のコンボボックスから個人名のデータ定義名「fmt4」を選択し、「設定」ボタンをクリックしてください。
(ブレイクさせるのは個人名のデータです。)



- 3) ブレイク詳細の「作成」ボタンをクリックすると、ブレイク詳細フォーマットが作成されます。



- 4) [ブレイク名]のリストボックスから[定義名]を選択すると、[対象定義名]のコンボボックスが有効になります。
コンボボックスから「tmg1」を選択してください。

ブレイク設定

ブレイクタイピング(A)

tmg1

作成(M)
削除(X)
コピー(Y)
ペースト前(B)
ペースト後(N)
設定(S)

ブレイク定義名: tmg1
対象定義名: fmt4

改ページ設定(E)
対象定義名:

ブレイク詳細(D)

ALL NULL TOK TOK NULL

作成(1)
削除(2)
コピー(3)
ペースト前(4)
ペースト後(5)
設定(6)

ブレイク名
定義名
対象定義名: tmg1

上行罫線
特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

下行罫線
特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]

網掛け
網掛けなし [NULL] 種別: [0] 間隔: 0

省略
 する データ部項目番号:

OK キャンセル(C)

- 5) [上行罫線]のリストボックスから[罫線なし[NULL]]を選択してください。
(ブレイク時に上行罫線を表示しない設定です。)

ブレイク設定

ブレイクタイピング(A)

tmg1

作成(M)
削除(X)
コピー(Y)
ペースト前(B)
ペースト後(N)
設定(S)

ブレイク定義名: tmg1
対象定義名: fmt4

改ページ設定(E)
対象定義名:

ブレイク詳細(D)

ALL NULL TOK TOK NULL

作成(1)
削除(2)
コピー(3)
ペースト前(4)
ペースト後(5)
設定(6)

ブレイク名
定義名
対象定義名:

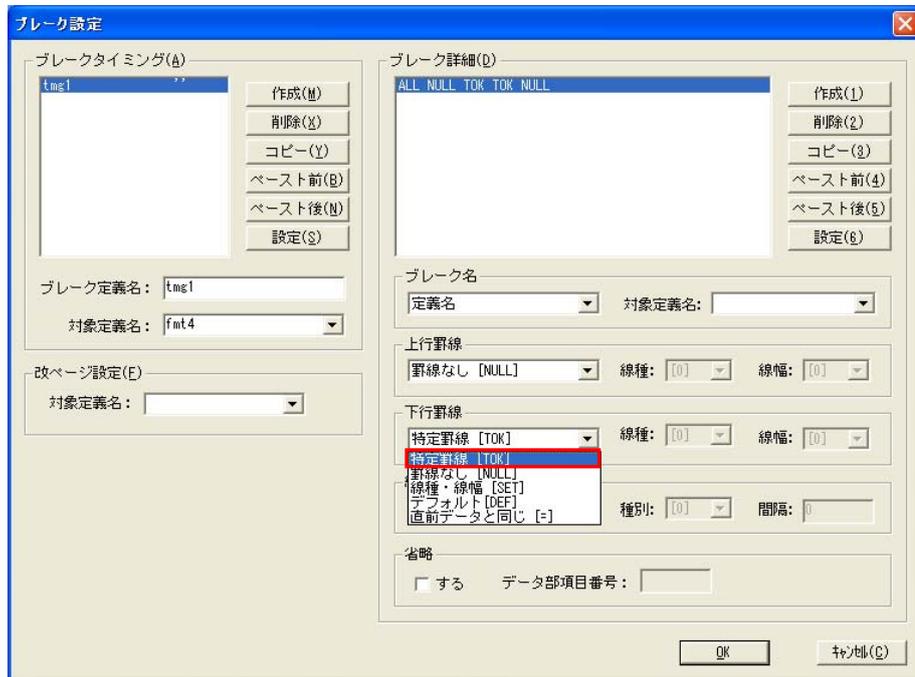
上行罫線
罫線なし [NULL] 線種: [0] 線幅: [0]
特定罫線 [TOK] 線種: [0] 線幅: [0]
罫線なし [NULL] 線種: [0] 線幅: [0]
罫線・線幅 [SE] 線種: [0] 線幅: [0]
デフォルト [DEF] 線種: [0] 線幅: [0]
直前データと同じ [E] 線種: [0] 線幅: [0]

網掛け
網掛けなし [NULL] 種別: [0] 間隔: 0

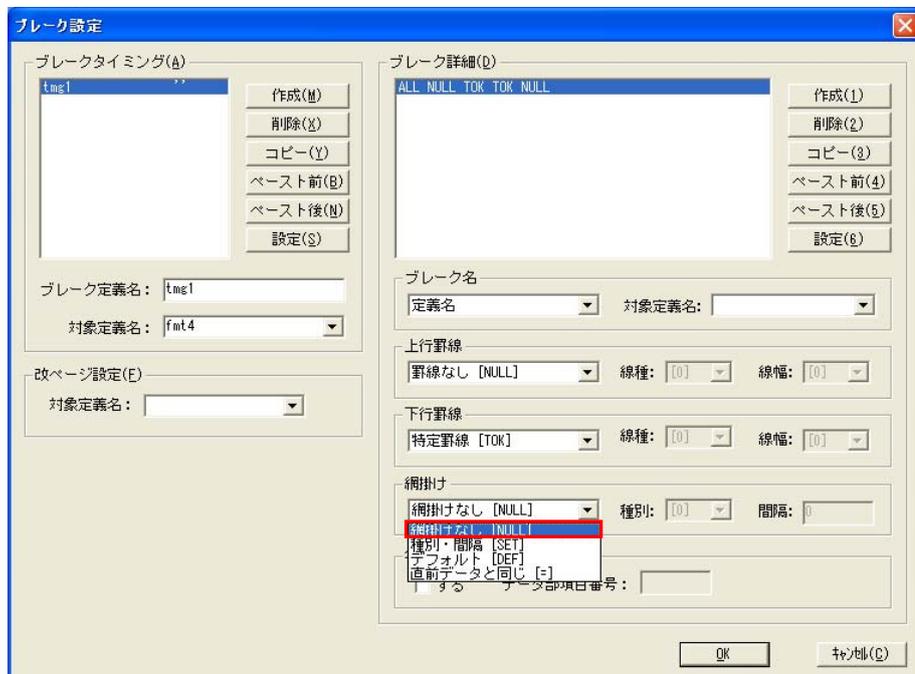
省略
 する データ部項目番号:

OK キャンセル(C)

- 6) [下行罫線]のリストボックスから[特定罫線[TOK]]を選択してください。
(ブレイク時に下行罫線を表示させる設定です。)



- 7) [網掛け]のリストボックスから[網掛けなし[NULL]]を選択してください。
(ブレイク時に網掛けを表示しない設定です。)



- 8) [省略]のチェックボックスに✓印を表示してください。
(個人名が変わるまで、部、課、個人名の表示を省略する設定です。罫線も省略されます)
[データ部項目番号]フィールドに‘1 2 3’と入力してください。
(この番号は、データ部を左から数えた番号です。)

ブレイク設定

ブレイクタイミング(A)

ブレイク詳細(D)

ブレイク定義名: tmg1
対象定義名: fnt4

改ページ設定(E)
対象定義名:

ブレイク名
定義名
対象定義名:

上行罫線
罫線なし [NULL]
線種: [0]
線幅: [0]

下行罫線
特定罫線 [TOK]
線種: [0]
線幅:

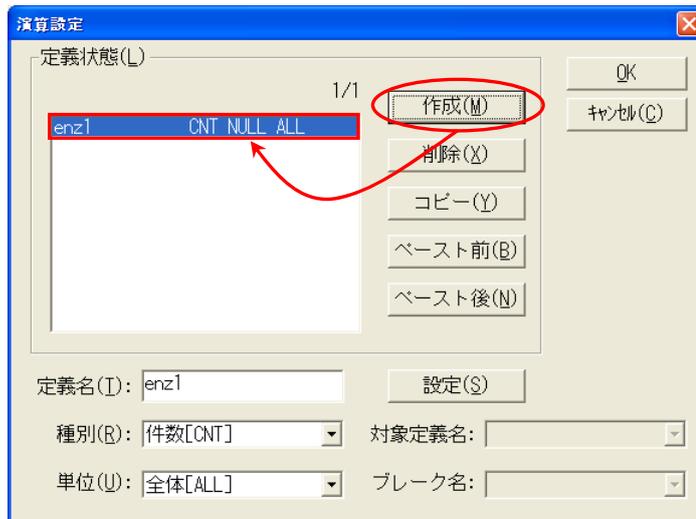
網掛け
網掛けなし [NULL]
種別: [0]
間隔:

省略
 する
データ部項目番号: 1 2 3

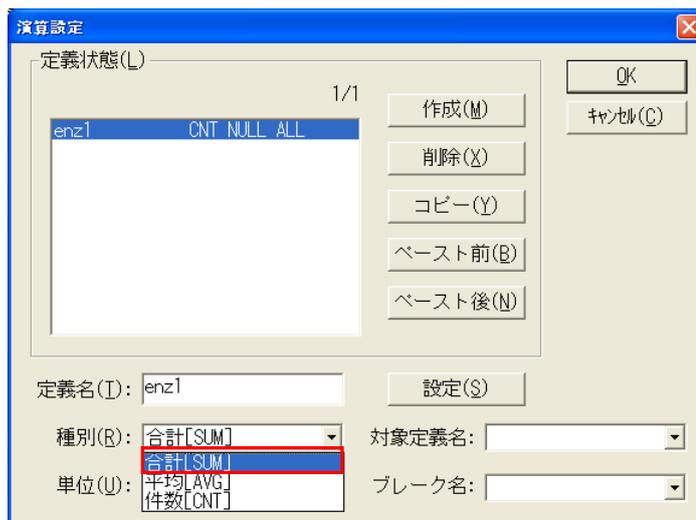
↑ ↑
半角スペース

- 9) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。
設定が保存されます。
「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

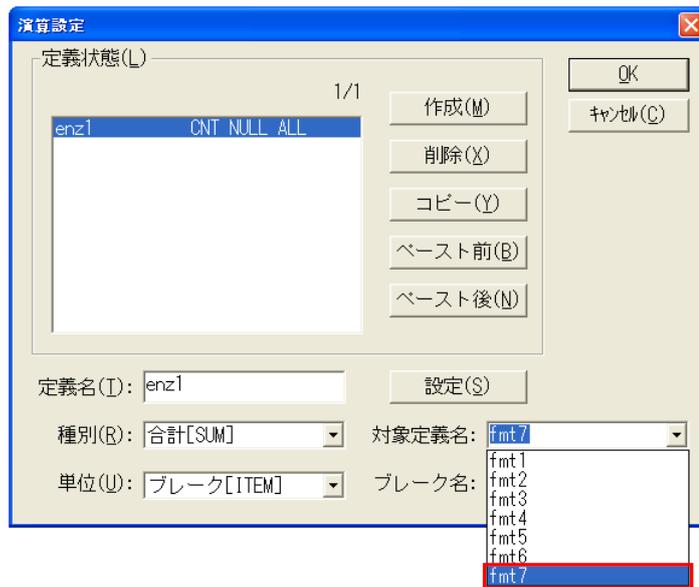
3) 「作成」ボタンをクリックすると、演算定義名が作成されます。



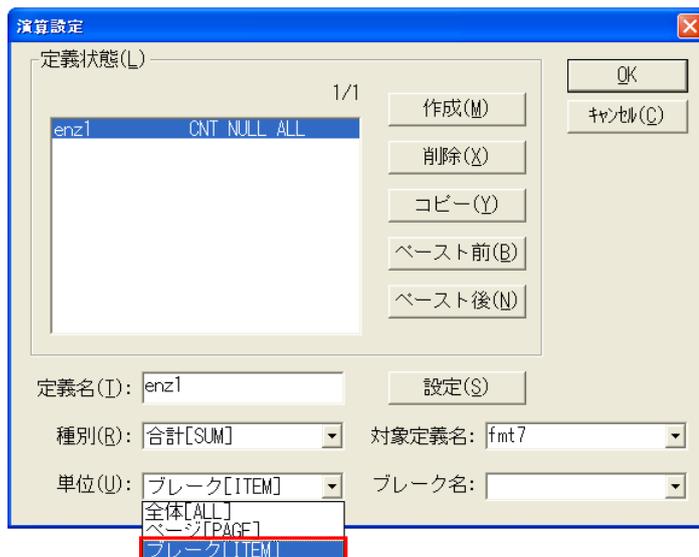
4) [種別]のリストボックスから[合計[SUN]]を選択してください。
(金額の合計値を表示させる設定です。)



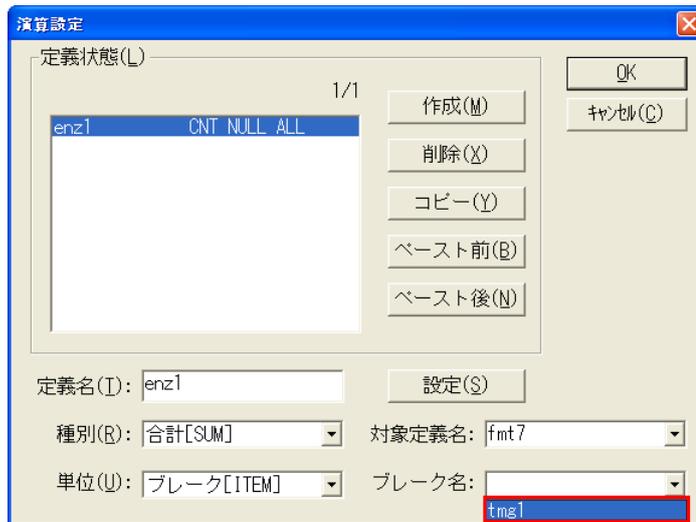
- 5) [対象定義名]のコンボボックスから金額のデータ定義名「fmt7」を選択してください。



- 6) [単位]のリストボックスから[ブレーク[ITEM]]を選択してください。

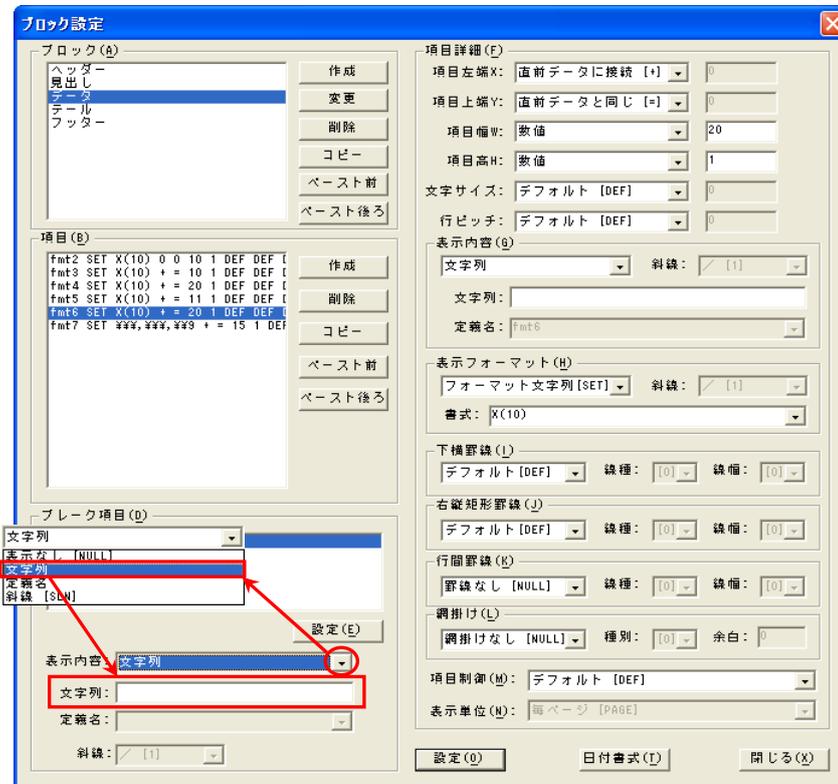


7) [ブレイク名]のコンボボックスからブレイクするように作成したブレイク定義名「tmg1」を選択してください。



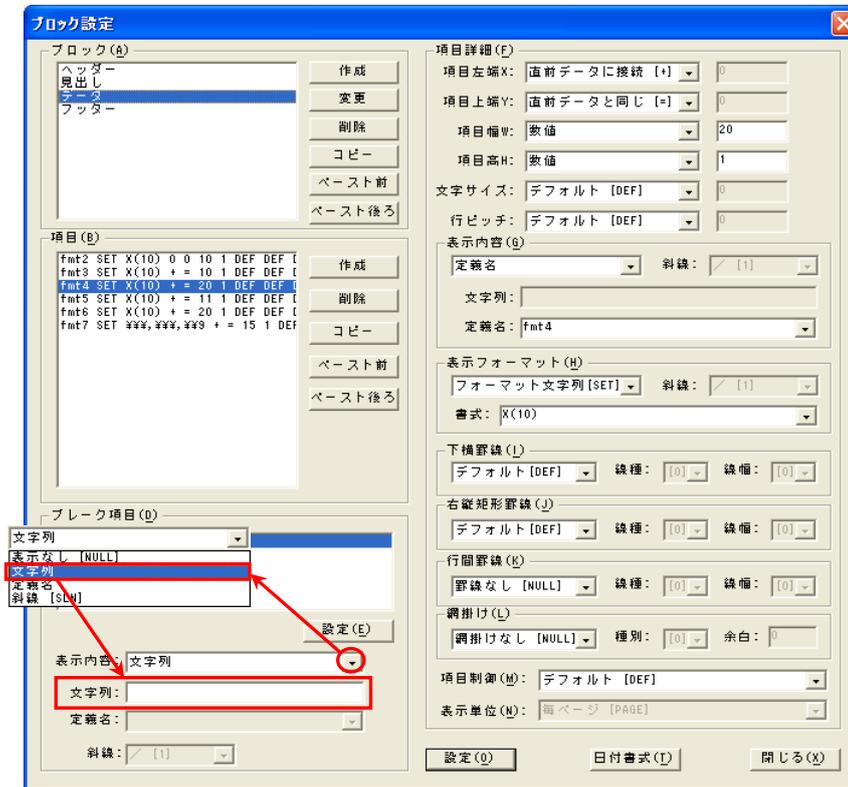
- 8) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。
設定が保存されます。
「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

- 2) ブレーク項目の[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になります。
「個人合計」を入力してください。



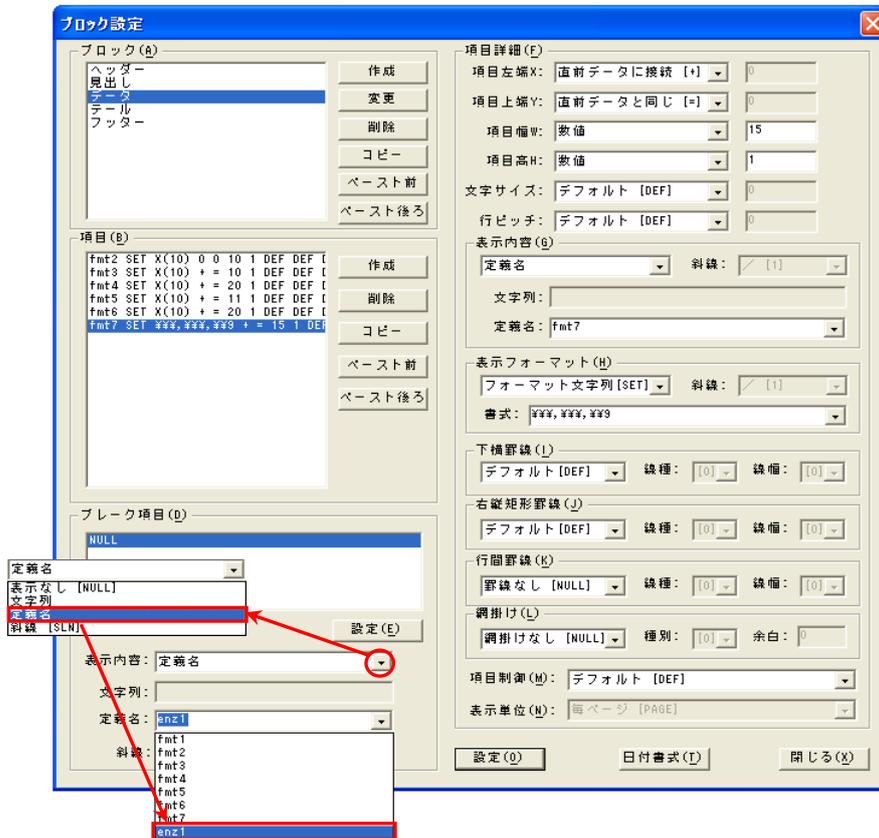
- 3) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

- 4) 項目から個人名のデータが表示される行「fmt4」を選択してください。
- 5) ブレーク項目の[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になりますが、空欄のままにしておいてください。
(個人名が変わってブレークするまで下行罫線を引く設定です。)



- 6) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

- 7) 「ブロック設定」画面の項目から金額のデータが表示される行「fmt7」を選択してください。
- 8) ブレーク項目の[表示内容]のリストボックスから[定義名]を選択してください。
[定義名]のコンボボックスが有効になります。
コンボボックスから個人名が変わった時に演算させる演算定義名「enz1」を選択してください。



- 9) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。
- 10) 以上で、ブレーク処理が終了しました。

4.1.5 プレビュー2

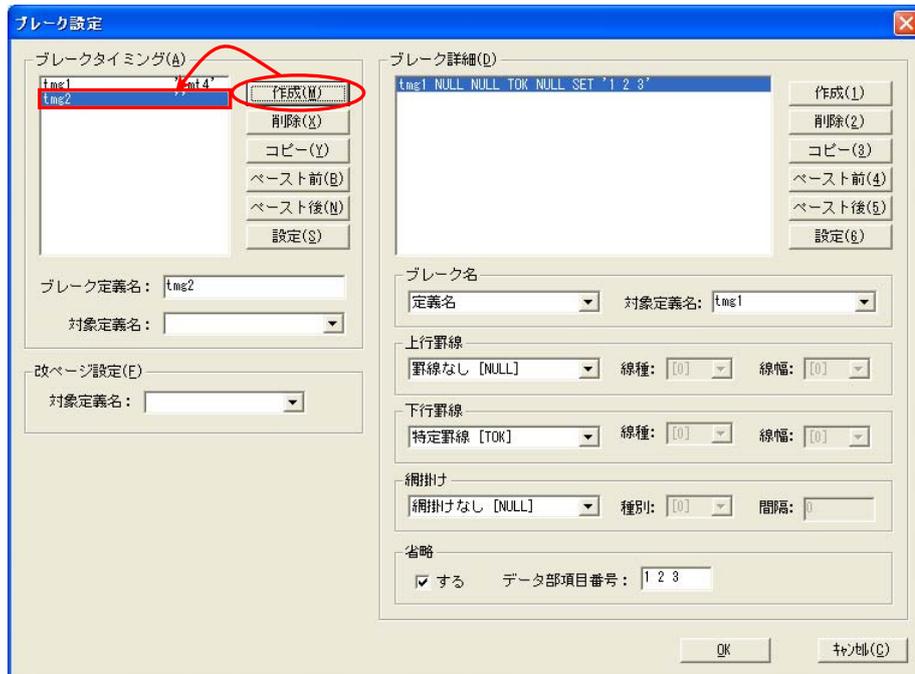
- 1) メニューバーのファイル→[プレビュー]を選択し、「プレビュー」画面を表示してください。
 「プレビュー」画面でデータを指定し、「テストデータ実行」ボタンをクリックすると、以下の様に表示されます。
 (プレビューの詳細については「2.1.2 プレビュー1」をご参照ください。)

営業所別表		川崎支社			
部	課	名前	日付	場所	金額
開発部	開発一課	佐々木花子	2002/04/01	静岡支社	¥6,200
				個人合計	¥6,200
		田中一郎	2002/04/01	静岡支社	¥6,200
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
			2002/04/14	東京本社	¥600
				個人合計	¥8,000
		川上聡史	2002/04/01	東京本社	¥600
			2002/04/03	東京本社	¥600
			2002/04/04	東京本社	¥600
			2002/04/05	東京本社	¥600
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
			2002/04/14	東京本社	¥600
			2002/04/20	東京本社	¥600
			個人合計	¥4,800	
		田中太郎	2002/04/03	静岡支社	¥6,200
			2002/04/15	静岡支社	¥6,200
			2002/04/26	静岡支社	¥6,200
				個人合計	¥18,600
菅井 肇	2002/04/02	沖縄支社	¥24,200		
	2002/04/15	沖縄支社	¥24,200		
	2002/04/26	沖縄支社	¥24,200		
		個人合計	¥72,600		
山川 太	2002/04/02	東京本社	¥600		
	2002/04/03	東京本社	¥600		
	2002/04/04	東京本社	¥600		
	2002/04/05	東京本社	¥600		
		個人合計	¥2,400		

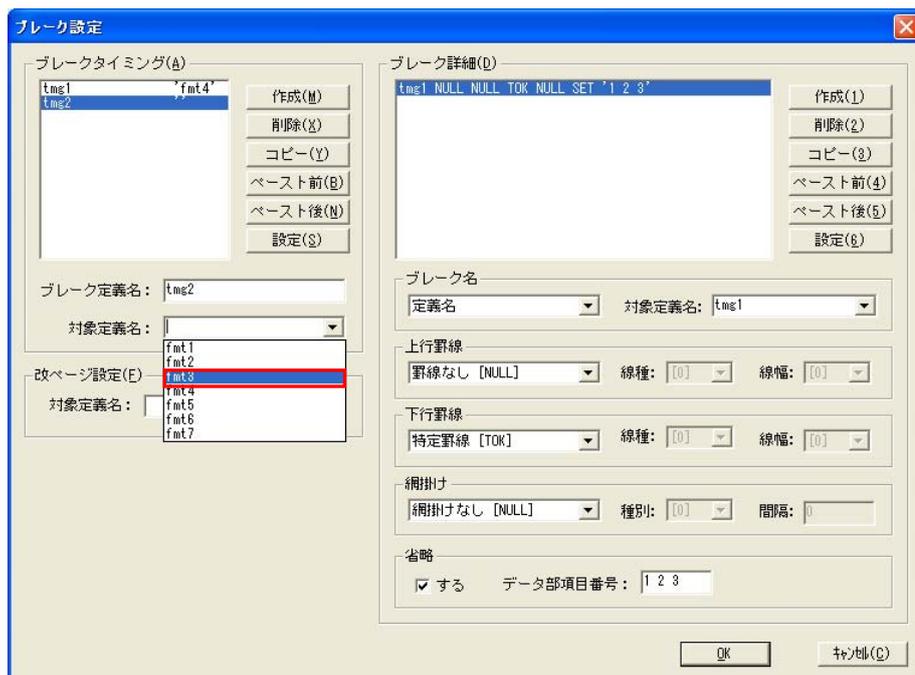
4.1.6 課名が変わったら金額の合計を表示

課名が変わった時、その課に属している個人が使用した金額の合計値をデータ部に表示します。

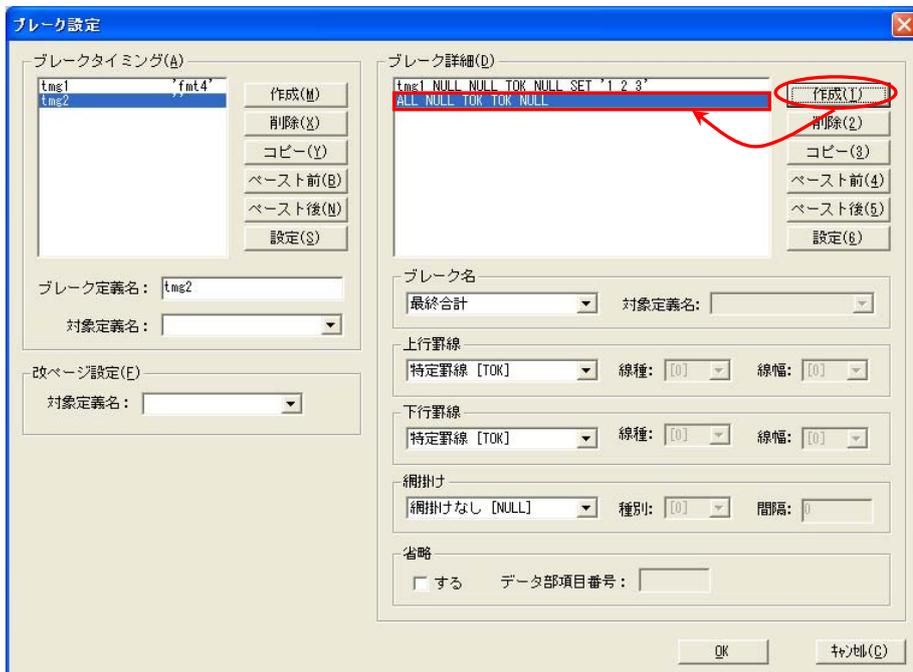
- 1) メニューバーの設定→[ブレイク]を選択し、「ブレイク設定」画面を開いてください。
- 2) ブレイクタイミングの「作成」ボタンをクリックすると、ブレイク定義名が作成されます。



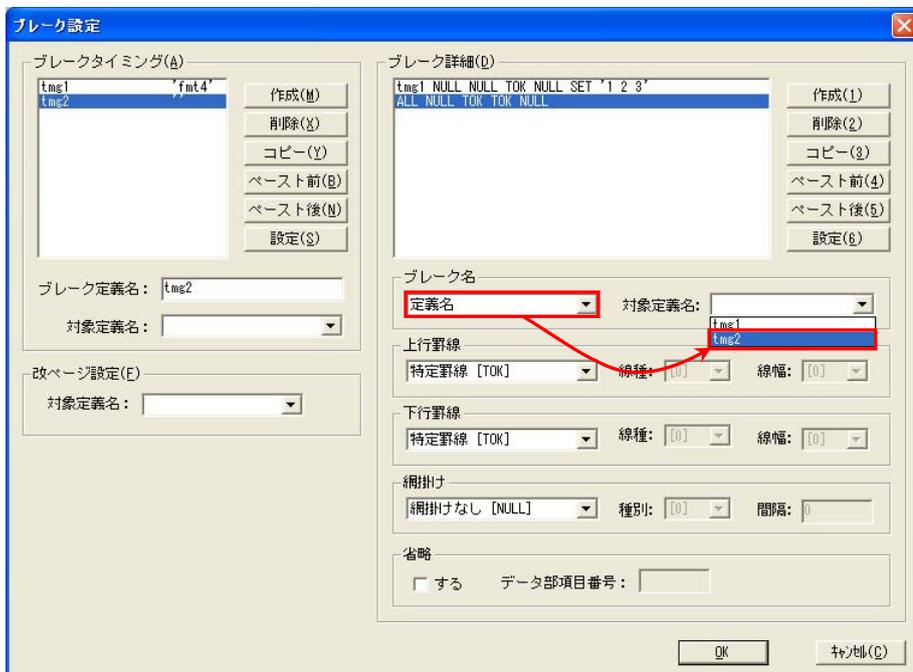
- 3) [対象定義名]のコンボボックスから課のデータ定義名「fmt3」を選択し、「設定」ボタンをクリックしてください。
(ブレイクさせるのは課のデータです。)



4) ブレーク詳細の「作成」ボタンをクリックすると、ブレーク詳細フォーマットが作成されます。



5) [ブレーク名]のリストボックスから[定義名]を選択すると、[対象定義名]が有効になります。
[対象定義名]のコンボボックスから「tmg2」を選択してください。



6) 上行罫線、下行罫線、網掛けは以下の設定を行ってください。

上行罫線 : [罫線なし[NULL]]を選択

下行罫線 : [特定罫線[TOK]]を選択

網掛け : [網掛けなし[NULL]]を選択

7) [省略]のチェックボックスに✓印を表示させてください。

(課が変わるまで、部、課の表示を省略する設定です。)

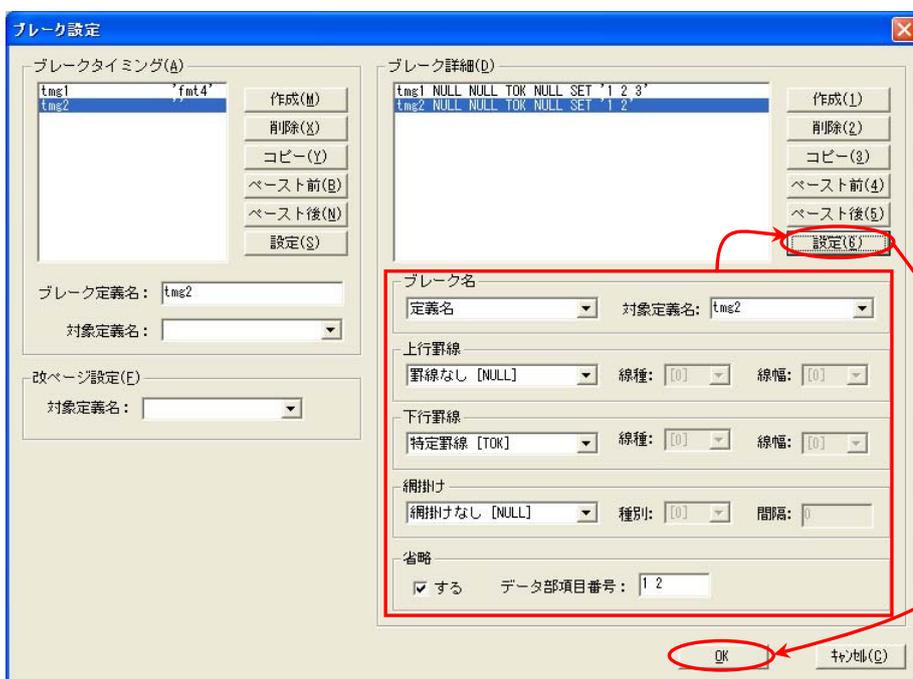
チェックボックス右横の[データ部項目番号]フィールドに‘1 2’と入力してください。

(この番号は、データ部を左から数えた番号です。)

9) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

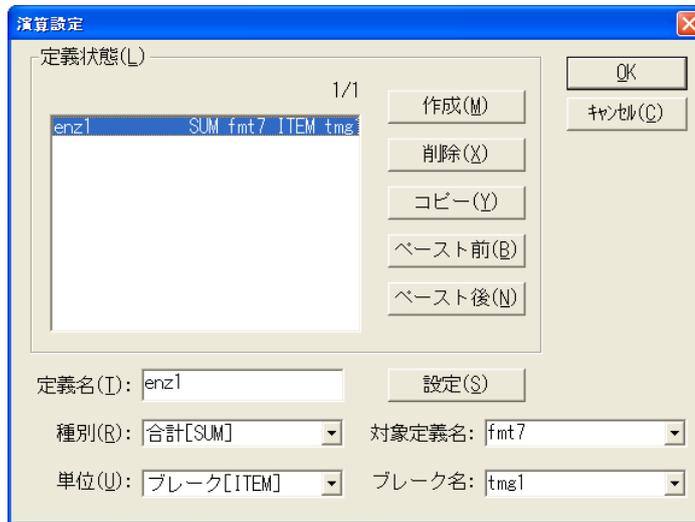
設定が保存されます。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

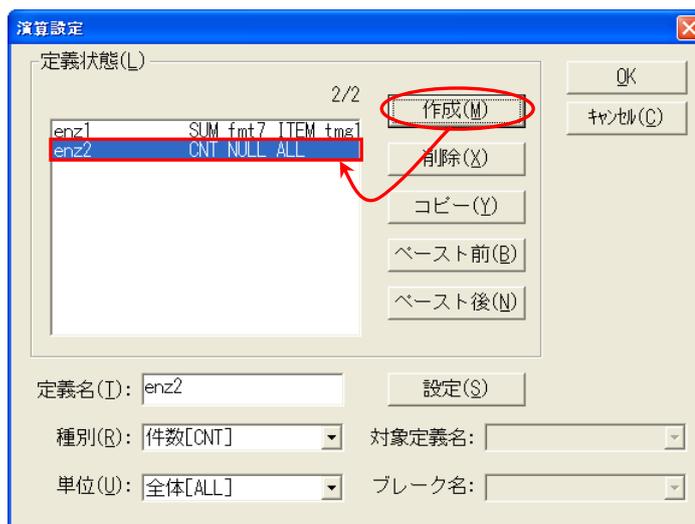


4.1.7 演算設定

1) メニューバーの設定→[演算]を選択し、「演算設定」画面を表示させてください。



2) 「作成」ボタンをクリックすると、演算定義名が作成されます。



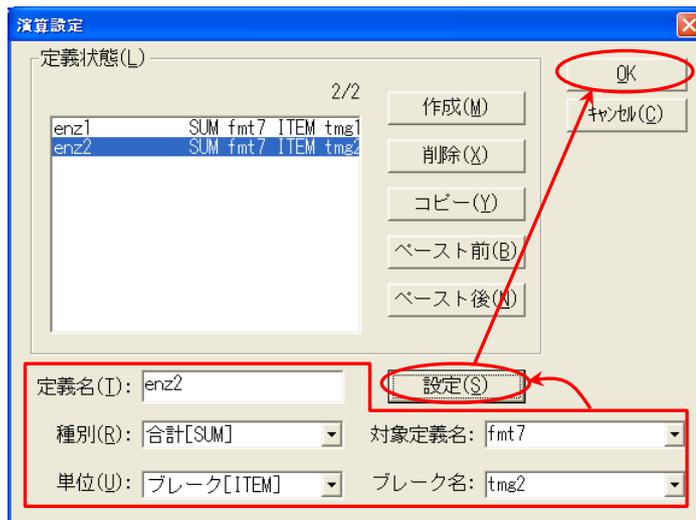
4) 以下の設定を行ってください。

- 種別 : [合計[SUN]]を選択
- 対象定義名 : 金額のデータ定義名「fmt7」を選択
- 単位 : [ブレイク[ITEM]]を選択
- ブレイク名 : リストボックスからブレイクするように作成したブレイク定義名「tmg2」を選択

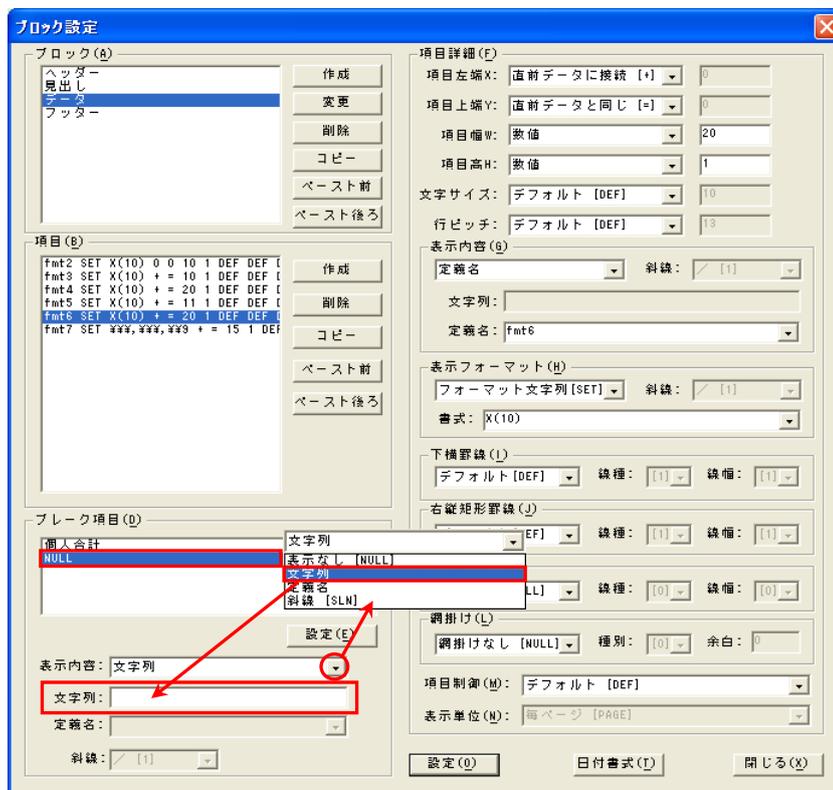
5) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

設定が保存されます。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

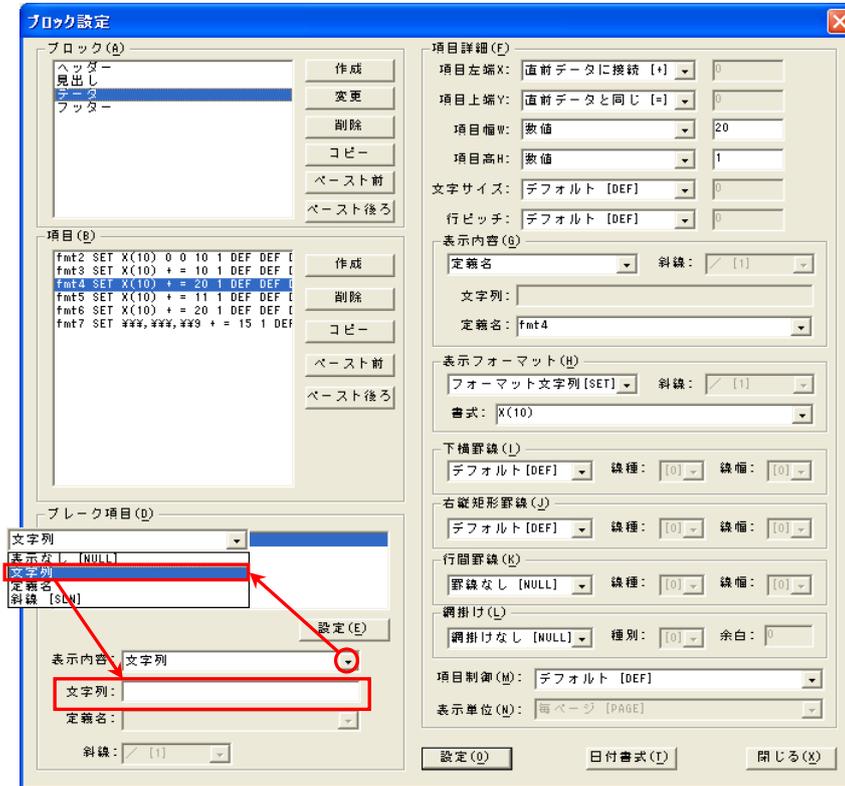


- 2) ブレーク項目のリストの2番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]を入力するフィールドが有効になります。任意の文字列「課合計」を入力してください。



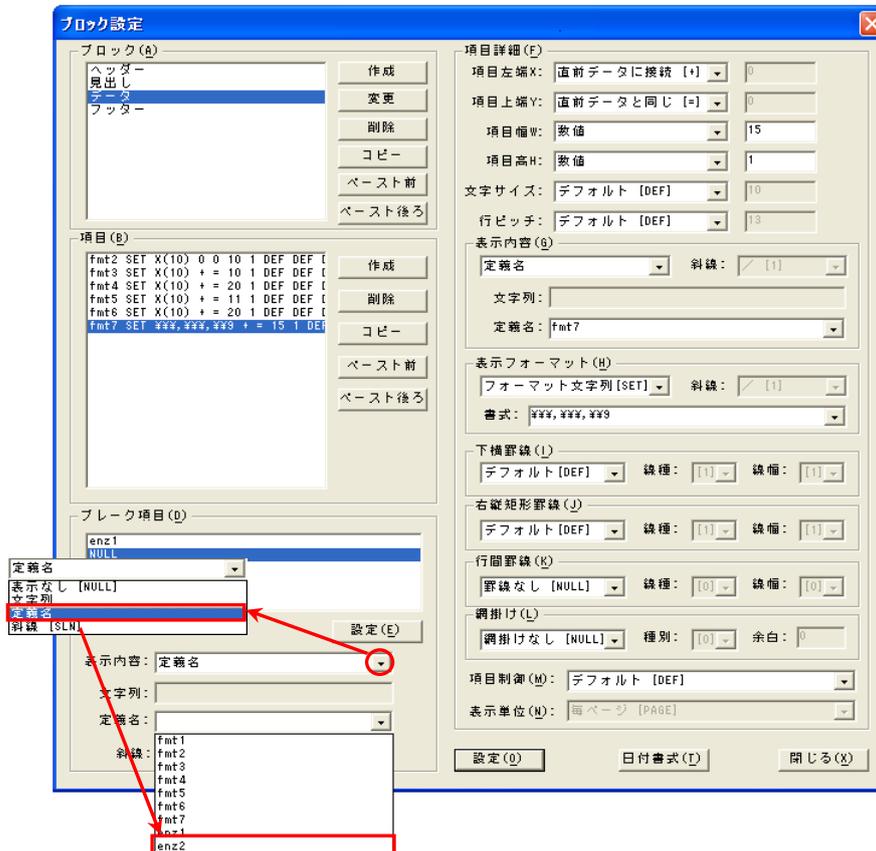
- 3) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

- 項目から個人名のデータが表示される行「fmt4」を選択してください。
- ブレイク項目のリストの2番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になりますが、空欄のままにしておいてください。
(課名が変わってブレイクするまで下行罫線を引く設定です。)



- 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
- 項目から課のデータが表示される行「fmt3」を選択し、上記と同じ設定をしてください。

- 8) 「ブロック設定」画面の項目から金額のデータが表示される行「fmt7」を選択してください。
- 9) ブレーク項目のリストの2番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[定義名]を選択してください。
[定義名]のコンボボックスが有効になります。
コンボボックスから課名が変わった時に演算させる演算定義名「enz2」を選択してください。



- 10) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。
- 11) 以上で、ブレーク処理が終了しました。

4.1.9 プレビュー3

1)メニューバーのファイル→[プレビュー]を選択し、「プレビュー」画面を表示してください。

「プレビュー」画面でデータを指定し、「テストデータ実行」ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。

(プレビューの詳細については「2.1.2 プレビュー1」をご参照ください。)

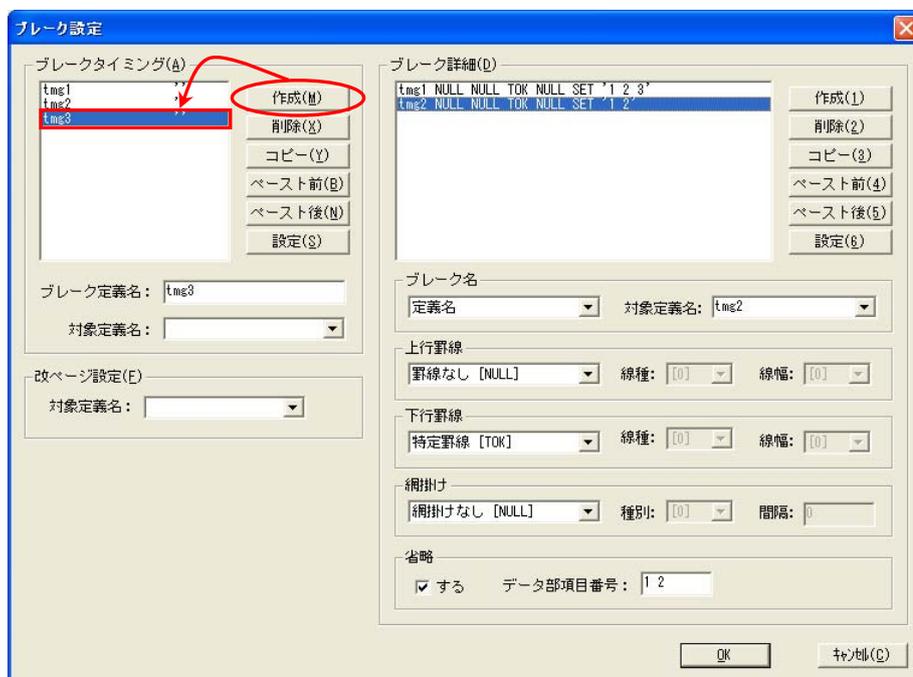
営業所別表		川崎支社			
部	課	名前	日付	場所	金額
開発部	開発一課	佐々木花子	2002/04/01	静岡支社	¥8,200
				個人合計	¥8,200
		田中一郎	2002/04/01	静岡支社	¥8,200
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
			2002/04/14	東京本社	¥600
		個人合計	¥9,000		
		課合計	¥14,200		
	開発二課	川上聡史	2002/04/01	東京本社	¥600
			2002/04/03	東京本社	¥600
			2002/04/04	東京本社	¥600
			2002/04/05	東京本社	¥600
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
2002/04/14			東京本社	¥600	
2002/04/20			東京本社	¥600	
		個人合計	¥4,800		
		田中次郎	2002/04/03	静岡支社	¥6,200
		2002/04/15	静岡支社	¥6,200	
		2002/04/26	静岡支社	¥6,200	
		個人合計	¥18,600		
	若井 肇	2002/04/02	沖縄支社	¥24,200	
		2002/04/15	沖縄支社	¥24,200	
		2002/04/26	沖縄支社	¥24,200	
		個人合計	¥72,600		
		課合計	¥96,000		
営業一課	山川 太	2002/04/02	東京本社	¥600	
		2002/04/03	東京本社	¥600	
		2002/04/04	東京本社	¥600	
		2002/04/05	東京本社	¥600	
			個人合計	¥2,400	
		課合計	¥2,400		

4.1.10 部名が変わったら金額の合計を表示

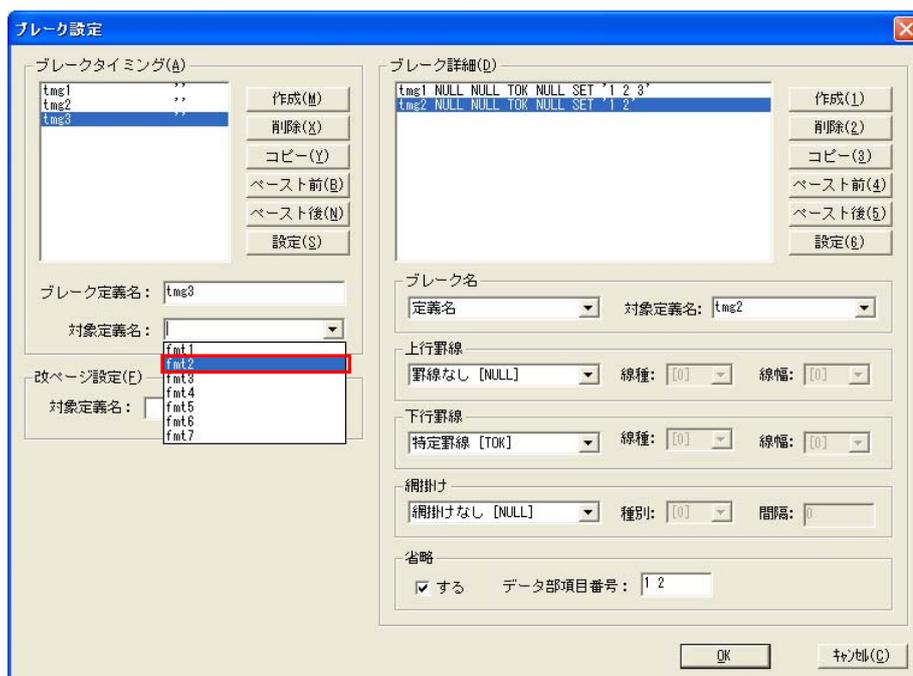
部名が変わった時、その部に属している課の個人が使用した金額の合計値をデータ部に表示します。

1) メニューバーの設定→[ブレイク]を選択し、「ブレイク設定」画面を開いてください。

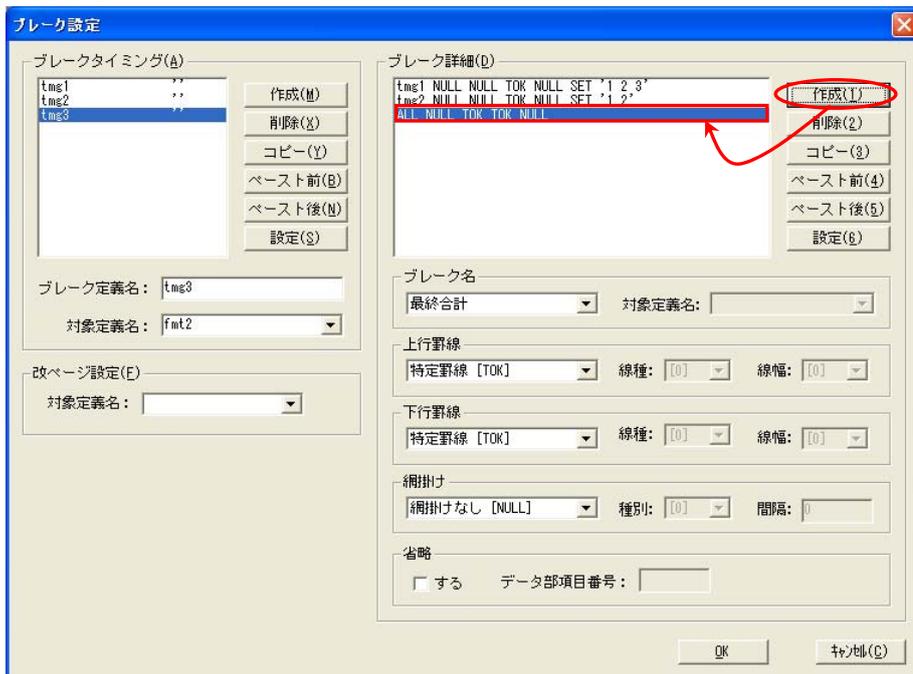
2) ブレイクタイミングの「作成」ボタンをクリックすると、ブレイク定義名が作成されます。



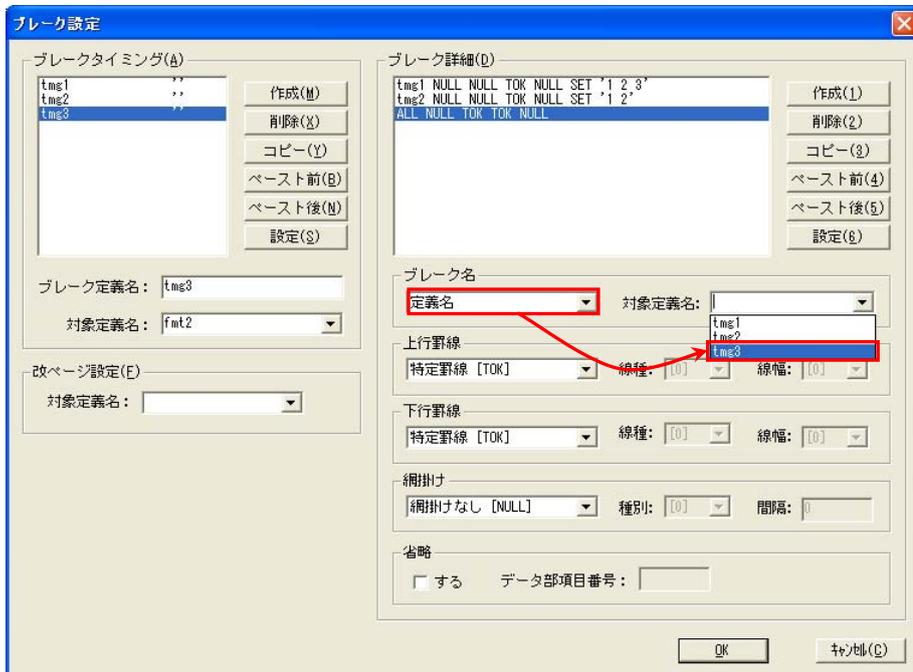
3) [対象定義名]のコンボボックスから部のデータ定義名「fmt2」を選択し、「設定」ボタンをクリックしてください。
(ブレイクさせるのは部のデータです。)



4) ブレーク詳細の「作成」ボタンをクリックすると、ブレーク詳細フォーマットが作成されます。



5) [ブレーク名]のリストボックスから[定義名]を選択すると、[対象定義名]が有効になります。
[対象定義名]のコンボボックスから「tmg3」を選択してください。



6) 上行罫線、下行罫線、網掛けは以下の設定を行ってください。

上行罫線 : [罫線なし[NULL]]を選択

下行罫線 : [特定罫線[TOK]]を選択

網掛け : [網掛け なし[NULL]]を選択

7) [省略]のチェックボックスに✓印を表示させてください。

(部名が変わるまで、部、課の表示を省略する設定です。)

チェックボックス右横の[データ部項目番号]フィールドに‘1’と入力してください。

(この番号は、データ部を左から数えた番号です。)

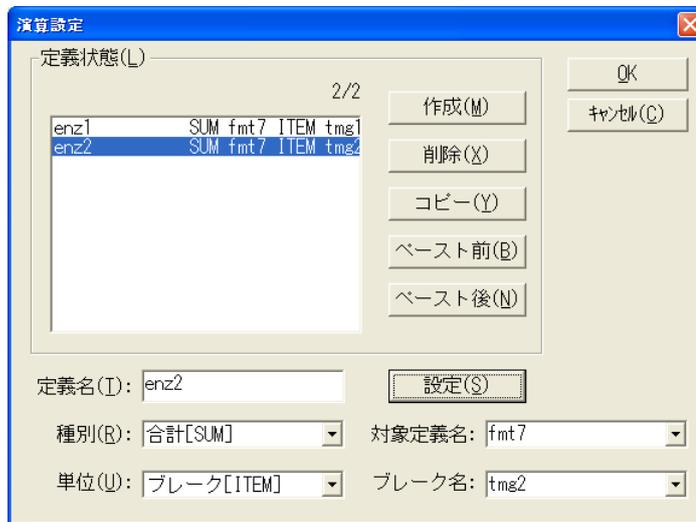
9) ブレーク詳細の各項目を設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

設定が保存されます。

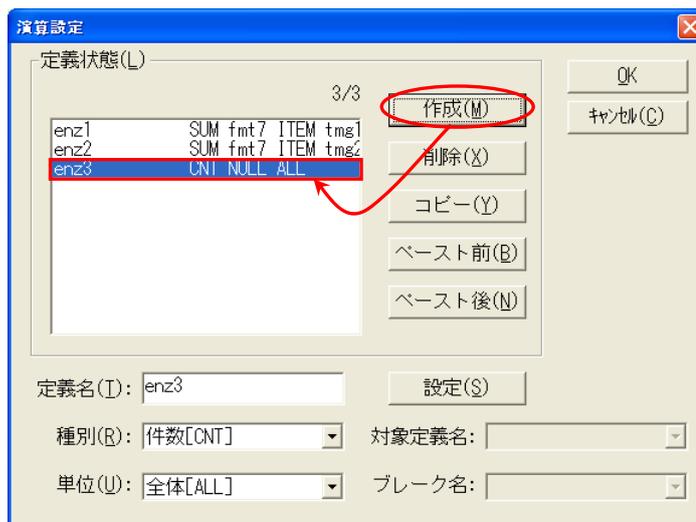
「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

4.1.11 演算設定

1) メニューバーの設定→[演算]を選択し、「演算設定」画面が表示させていただきます。



2) 「作成」ボタンをクリックすると、演算定義名が作成されます。



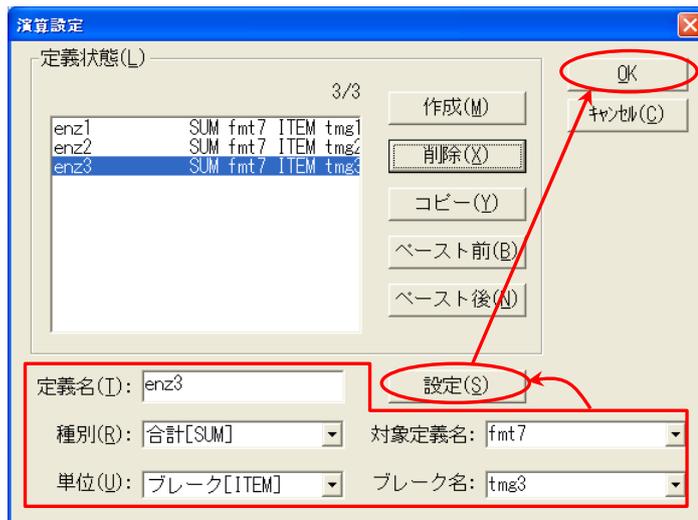
4) 以下の設定を行ってください。

- 種別 : [合計[SUN]]を選択
- 対象定義名 : 金額のデータ定義名「fmt7」を選択
- 単位 : [ブレーク[ITEM]]を選択
- ブレーク名 : リストボックスからブレークするように作成したブレーク定義名「tmg3」を選択

5) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

設定が保存されます。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。



4.1.12 ブレークした時のタイトルの設定

- 1)メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票の場所のデータが表示されるデータ部のブロック「fmt6」をクリックしてください。ブロックはデータが選択され、項目はクリックしたデータが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。

ブロック設定

ブロック (A)

ヘッダー	作成
見出し	変更
データ	削除
フッター	コピー
	ペースト前
	ペースト後

項目 (B)

fmt2 SET X(10) 0 0 10 1 DEF DEF I	作成
fmt3 SET X(10) += 10 1 DEF DEF I	削除
fmt4 SET X(10) += 20 1 DEF DEF I	コピー
fmt5 SET X(10) += 11 1 DEF DEF I	ペースト前
fmt6 SET X(10) += 20 1 DEF DEF I	ペースト後
fmt7 SET \$\$\$,\$\$\$,\$\$\$ + = 15 1 DEF	

ブレーク項目 (D)

個人合計
課合計
NULL

設定 (E)

表示内容: 文字列

文字列: 個人合計

定義名:

斜線: / [1]

項目詳細 (E)

項目左端 X: 直前データに接続 [+]

項目上端 Y: 直前データと同じ [=]

項目幅 W: 数値 20

項目高 H: 数値 1

文字サイズ: デフォルト [DEF] 10

行ピッチ: デフォルト [DEF] 13

表示内容 (G)

定義名: fmt6

文字列:

定義名: fmt6

表示フォーマット (H)

フォーマット文字列 [SET]

書式: X(10)

下横罫線 (I)

デフォルト [DEF] 罫線種: [1] 罫線幅: [1]

右縦罫線 (J)

デフォルト [DEF] 罫線種: [1] 罫線幅: [1]

行間罫線 (K)

罫線なし [NULL] 罫線種: [0] 罫線幅: [0]

網掛け (L)

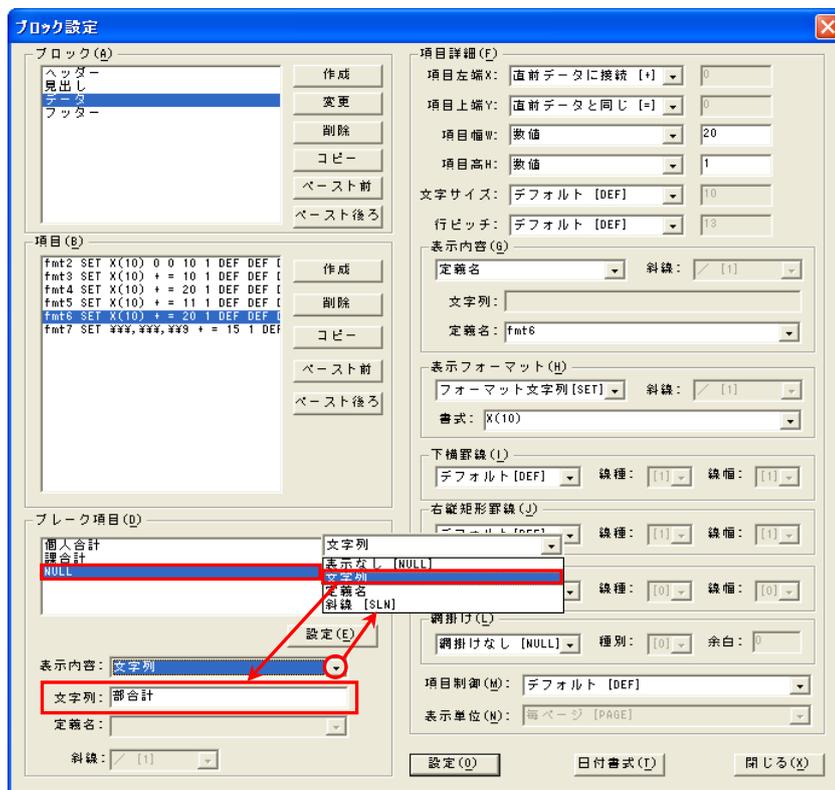
網掛けなし [NULL] 罫線種: [0] 余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

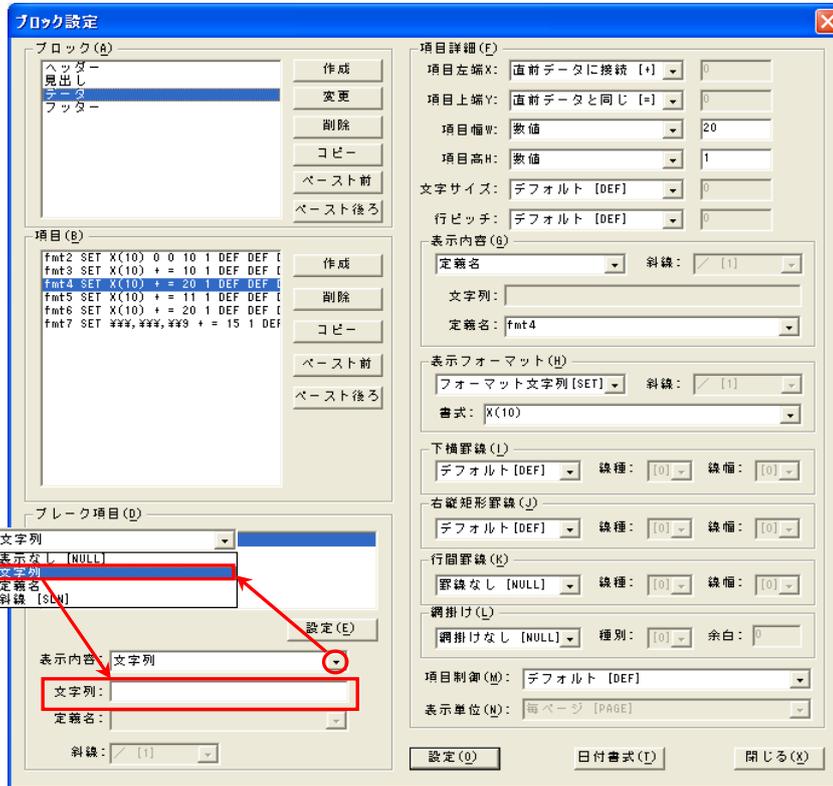
設定 (O) 日付書式 (P) 閉じる (X)

- 2) ブレーク項目のリストの3番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になります。「部合計」を入力してください。



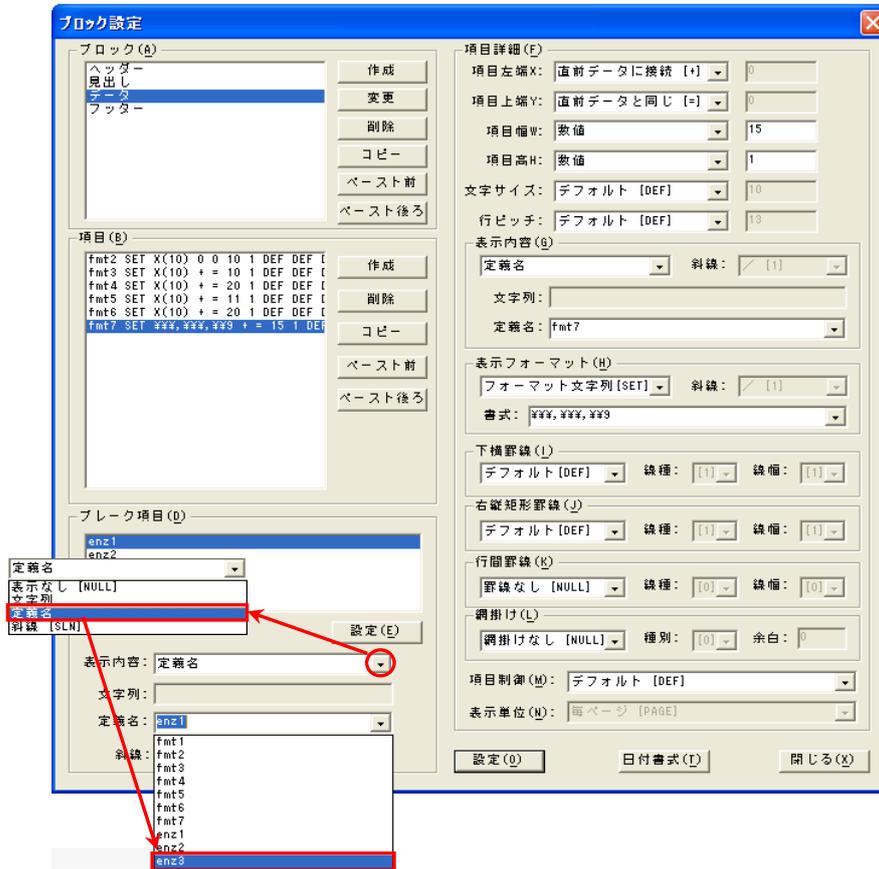
- 3) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

- 項目から個人名のデータが表示される行「fmt4」を選択してください。
- ブレイク項目のリストの3番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。
[文字列]の入力フィールドが有効になりますが、空欄のままにしておいてください。
(部名が変わってブレイクするまで下行罫線を引く設定です。)



- 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
- 項目から課のデータが表示される行「fmt3」と部が表示される行「fmt2」も選択し、上記と同じ設定をしてください。

- 8) 項目から金額のデータが表示される行「fmt7」を選択してください。
- 9) ブレーク項目のリストの3番目の[NULL]を選択して、[表示内容]のリストボックスから[定義名]を選択してください。
[定義名]のコンボボックスが有効になります。
コンボボックスから部名が変わった時に演算させる演算定義名「enz3」を選択してください。



- 10) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。
- 11) 以上で、ブレーク処理が終了しました。

4.1.13 プレビュー4

1) メニューバーのファイル→プレビューを選択し、「プレビュー」画面を表示してください。

「プレビュー」画面でデータを指定し、「テストデータ実行」ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。

(プレビューの詳細については「2.1.2 プレビュー1」をご参照ください。)

営業所別表		川崎支社			
部	課	名前	日付	場所	金額
開発部	開発一課	佐々木花子	2002/04/01	静岡支社	¥6,200
				個人合計	¥6,200
		田中一郎	2002/04/01	静岡支社	¥6,200
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
	2002/04/14		東京本社	¥600	
		個人合計	¥8,000		
		課合計	¥14,200		
	開発二課	川上聡史	2002/04/01	東京本社	¥600
			2002/04/03	東京本社	¥600
			2002/04/04	東京本社	¥600
			2002/04/05	東京本社	¥600
			2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600
			2002/04/14	東京本社	¥600
			2002/04/20	東京本社	¥600
			個人合計	¥4,800	
田中太郎		2002/04/03	静岡支社	¥6,200	
		2002/04/15	静岡支社	¥6,200	
		2002/04/26	静岡支社	¥6,200	
		個人合計	¥18,600		
若井 肇	2002/04/02	沖縄支社	¥24,200		
	2002/04/15	沖縄支社	¥24,200		
	2002/04/26	沖縄支社	¥24,200		
		個人合計	¥72,600		
	課合計	¥96,000			
	部合計	¥110,200			
営業部	営業一課	山川 太	2002/04/02	東京本社	¥600
			2002/04/03	東京本社	¥600
			2002/04/04	東京本社	¥600
			2002/04/05	東京本社	¥600
				個人合計	¥2,400
	課合計	¥2,400			

4.1.14 金額の総合計を表示

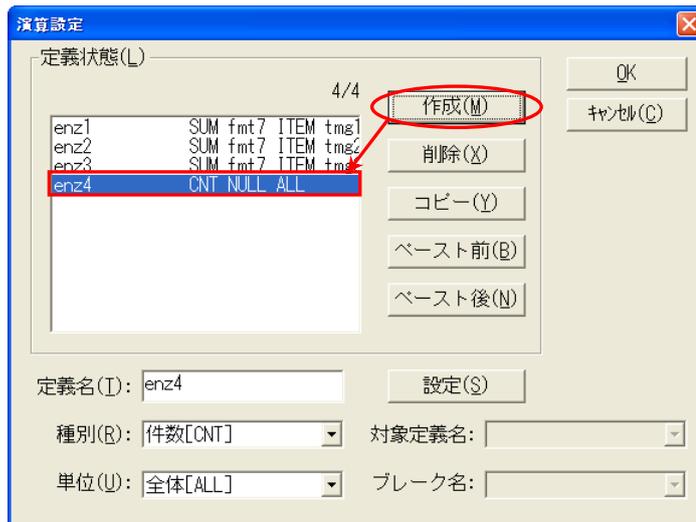
データが終了した時に、金額の総合計を表示します。

この場合は、帳票の最後に出力しますので、データ部ではなくフッター部を使用します。

金額の総合計を表示させるために演算の設定を行います。

1)メニューバーの設定→[演算]を選択し、「演算設定」画面を表示してください。

2)「作成」ボタンをクリックすると、演算定義名が作成されます。



4) 以下の設定を行ってください。

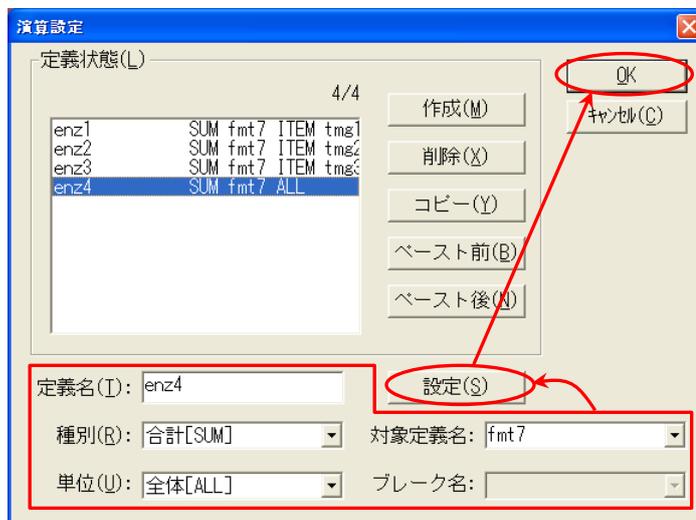
種別 : [合計[SUN]]を選択

対象定義名 : 金額のデータ定義名「fmt7」を選択

単位 : [全体[ALL]]を選択

5) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。設定が保存されます。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。



4.1.15 帳票出力時に総合計のタイトルを表示

1) メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択し、帳票のフッター部のブロックをクリックしてください。

ブロックはフッターが選択され、項目はクリックしたフッター部のデータが選択された状態で「ブロック設定」画面が表示されます。

ブロック設定

ブロック (A)

ヘッダー
見出し
データ
フッター

作成
変更
削除
コピー
ペースト前
ペースト後

項目 (B)

NULL NULL 0 0 10 1 DEF DEF DEF DE

作成
削除
コピー
ペースト前
ペースト後

ブレイク項目 (D)

設定 (E)

表示内容: 表示なし [NULL]

文字列:

定義名:

斜線: / [1]

項目詳細 (F)

項目左端 X: 数値 0

項目上端 Y: 数値 0

項目幅 W: 数値 10

項目高 H: 数値 1

文字サイズ: デフォルト [DEF] 10

行ピッチ: デフォルト [DEF] 13

表示内容 (G)

表示なし [NULL] 斜線: / [1]

文字列:

定義名:

表示フォーマット (H)

フォーマットなし [NULL] 斜線: / [1]

書式:

下横罫線 (I)

デフォルト [DEF] 罫線種: [1] 罫線幅: [1]

右縦罫線 (J)

デフォルト [DEF] 罫線種: [1] 罫線幅: [1]

行間罫線 (K)

罫線なし [NULL] 罫線種: [0] 罫線幅: [0]

網掛け (L)

網掛けなし [NULL] 種別: [0] 余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O) 日付書式 (F) 閉じる (X)

2) 項目詳細の[項目左端X]、[項目上端Y]、[項目幅 W]、[項目高 H]を設定してください。

	項目左端 X	項目上端 Y	項目幅 W	項目高 H
数値	51	0	20	1

3) [表示内容]のリストボックスから[文字列]を選択してください。

[文字列]の入力フィールドが有効になります。

「総合計」を入力してください。

4) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

表示内容の[文字列]が設定されます。

「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

- 5) 金額の総合計を表示するフッター部を作成します。
項目の「作成」ボタンをクリックしてください。

ブロック設定

ブロック (A)

- ヘッダー
- 見出し
- データ
- フッター

作成

変更

削除

コピー

ペースト前

ペースト後

項目 (B)

NULL	SET	総合計	0	0	10	1	DEF	DEF
NULL	NULL	+	=	10	=	DEF	DEF	DEF

作成

削除

コピー

ペースト前

ペースト後

ブレイク項目 (D)

設定 (E)

表示内容: 表示なし [NULL]

文字列:

定義名:

斜線: / [1]

項目詳細 (F)

項目左端 X: 直前データに接続 [+]

項目上端 Y: 直前データと同じ [=]

項目幅 W: 数値

項目高 H: 直前データと同じ [=]

文字サイズ: デフォルト [DEF]

行ピッチ: デフォルト [DEF]

表示内容 (G)

表示なし [NULL]

斜線: / [1]

文字列:

定義名:

表示フォーマット (H)

フォーマットなし [NULL]

斜線: / [1]

書式:

下横罫線 (I)

デフォルト [DEF]

罫線種: [0]

罫線幅: [0]

右縦矩形罫線 (J)

デフォルト [DEF]

罫線種: [0]

罫線幅: [0]

行間罫線 (K)

デフォルト [DEF]

罫線種: [0]

罫線幅: [0]

網掛け (L)

網掛けなし [NULL]

種別: [0]

余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O)

日付書式 (T)

閉じる (X)

6) 項目の作成した行を選択し、項目詳細の[項目左端X]、[項目上端Y]、[項目幅 W]、[項目高 H]を設定してください。

	項目左端 X	項目上端 Y	項目幅 W	項目高 H
リストボックス	直前データに接続[+]	直前データと同じ[=]	数値	直前データと同じ[=]
入力フィールド	-	-	15	

7) [表示内容]のリストボックスから[定義名]を選択してください。

[定義名]のコンボボックスが有効になります。

コンボボックスから総合計の演算定義名「enz4」を選択してください。

ブロック設定

ブロック (A)

項目 (B)

ブレイク項目 (D)

項目詳細 (F)

項目左端 X: 直前データに接続 [+]

項目上端 Y: 直前データと同じ [=]

項目幅 W: 数値

項目高 H: 直前データと同じ [=]

文字サイズ: デフォルト [DEF]

行ピッチ: デフォルト [DEF]

表示内容 (G)

定義名: 定義名

文字列:

定義名: enz4

表示フォー

フォーマ

書式:

下横罫線 (I)

デフォルト

enz4

右縦矩形罫線 (J)

デフォルト [DEF]

罫線種: [0]

罫線幅: [0]

行間罫線 (K)

デフォルト [DEF]

罫線種: [0]

罫線幅: [0]

罫掛け (L)

罫掛けなし [NULL]

種別: [0]

余白: 0

項目制御 (M): デフォルト [DEF]

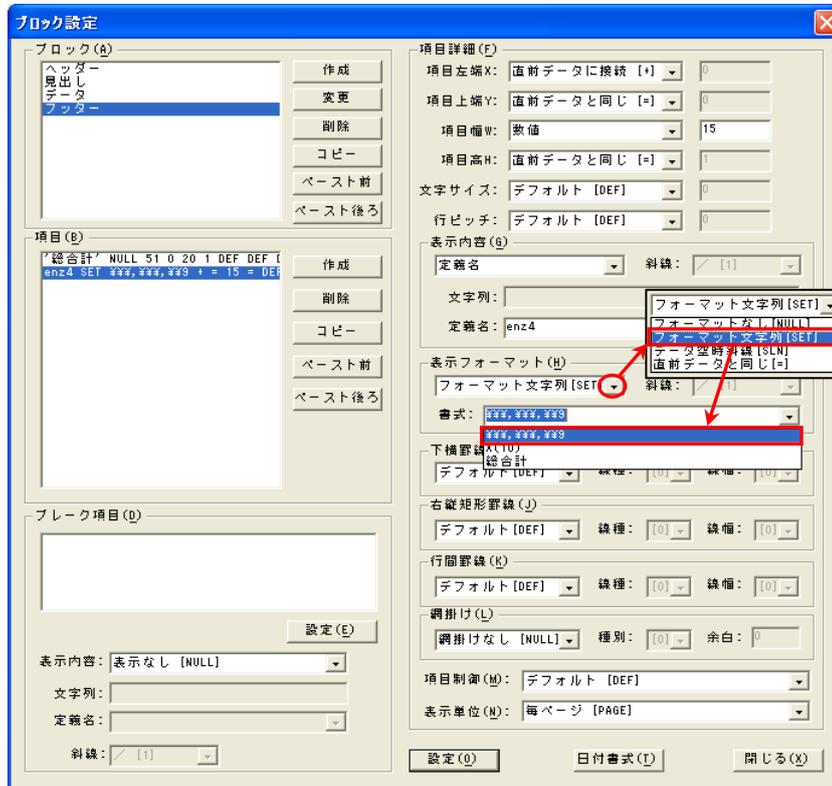
表示単位 (N): 毎ページ [PAGE]

設定 (O)

日付書式 (P)

閉じる (X)

- 8) [表示フォーマット]をクリックし、[フォーマット文字列[SET]]を選択してください。
[書式]のコンボボックスが有効になります。
[書式]のコンボボックスから「¥¥¥,¥¥¥,¥¥9」を選択してください。
※「3.1.8 データにカンマをセット」で一度入力されたフォーマットなのでコンボボックスに登録されています。
選択時、コンボボックスをクリックするとリストが表示されます。

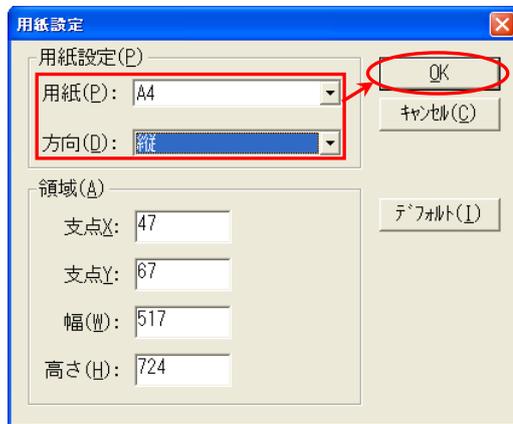


- 9) 設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。表示フォーマットが設定されます。
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。
- 10) 全てのブレイク処理が終了しました。

4.1.16 帳票の用紙サイズ設定

帳票の用紙サイズは縦方向です。

- 1) メニューバーの基本設定→用紙設定を選択し、「用紙設定」画面を表示してください。



- 2) 用紙設定の[用紙]と[方向]それぞれのリストボックスから任意の設定を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
用紙の設定が終了しました。

4.1.17 プレビュー5

メニューバーのファイル→[プレビュー]を選択し、「プレビュー」画面を表示してください。
 「プレビュー」画面でデータを指定し、「テストデータ実行」ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
 プレビューの詳細については「2.1.2 プレビュー1」をご参照ください。

営業所別表		川崎支社				
部	課	名前	日付	場所	金額	
開発部	開発一課	佐々木花子	2002/04/01	静岡支社	¥6,200	
				個人合計	¥6,200	
		田中一郎	2002/04/01	静岡支社	¥6,200	
			2002/04/12	東京本社	¥600	
			2002/04/13	東京本社	¥600	
		2002/04/14	東京本社	¥600		
			個人合計	¥8,000		
			課合計	¥14,200		
	開発二課	川上聡史		2002/04/01	東京本社	¥600
				2002/04/03	東京本社	¥600
				2002/04/04	東京本社	¥600
				2002/04/05	東京本社	¥600
				2002/04/12	東京本社	¥600
			2002/04/13	東京本社	¥600	
			2002/04/14	東京本社	¥600	
		2002/04/20	東京本社	¥600		
			個人合計	¥4,800		
		田中太郎	2002/04/03	静岡支社	¥6,200	
		2002/04/15	静岡支社	¥6,200		
		2002/04/26	静岡支社	¥6,200		
		個人合計	¥18,600			
	若井 肇	2002/04/02	沖縄支社	¥24,200		
		2002/04/15	沖縄支社	¥24,200		
		2002/04/26	沖縄支社	¥24,200		
		個人合計	¥72,600			
		課合計	¥96,000			
		部合計	¥110,200			
営業部	営業一課	山川 太	2002/04/02	東京本社	¥600	
			2002/04/03	東京本社	¥600	
			2002/04/04	東京本社	¥600	
			2002/04/05	東京本社	¥600	
				個人合計	¥2,400	
		課合計	¥2,400			
		部合計	¥2,400			
総合計					¥112,600	

5 画面説明

5.1 起動方法

5.1.1 起動

- 1) WINDOWSの起動
- 2) スタート→すべてのプログラム→IOWebDOC VXXX→IOCELA を選択してください。
(「VXXX」はバージョンです。)

注意

起動する前にネットワークの接続を行ってください。
プリンターへ出力する場合は、WINDOWSのプリントマネージャーを設定してください。

5.1.2 終了

メニューバーのファイル→[アプリケーションの終了]を選択してください。
IOCELAを終了します。

5.2 初期画面

IOCELAを起動すると「初期」画面が表示されます。



5.3 ファイル

5.3.1 新規作成

メニューバーのファイル→[新規作成]を選択してください。

「新規作成」画面が表示されます。



この画面でデータ個数等を設定することで、最初から帳票イメージでレイアウトを作成できます。作成後、ブロックや項目を選択して変更等も行えます。

- 作成ブロック

作成するブロックを指定します。

チェックボックスに✓印が表示されているブロックが作成されます。

項目名	説明
ヘッダー	帳票のタイトル、年月日、ページを表示
見出し	データ部の各項目の項目名を表示
データ	データファイルの内容を表示
テール	合計、平均等を表示
フッター	合計、脚注、タイトル等を表示

※なお、1つの帳票に必ずしも上記の5つのブロックが必要ではありません。

データ部以外のブロックは複数個の定義も可能です。

- データ

リストにはデータが表示されます。(変更可能)

項目名	説明
「作成」ボタン	データ部を作成します。 作成すると、見出し・定義名・フォーマットがそれぞれ表示されます。
「設定」ボタン	変更内容を設定します。 新規作成またはリストから選択し、変更後、このボタンをクリックすると設定されます。
「削除」ボタン	データを削除します。 リストから選択し、このボタンをクリックすると選択したデータが削除されます。

- 見出し

新規作成またはリストから選択した見出しのタイトルが表示されます。

- 定義名

新規作成またはリストから選択したデータの定義名が表示されます。

- フォーマット

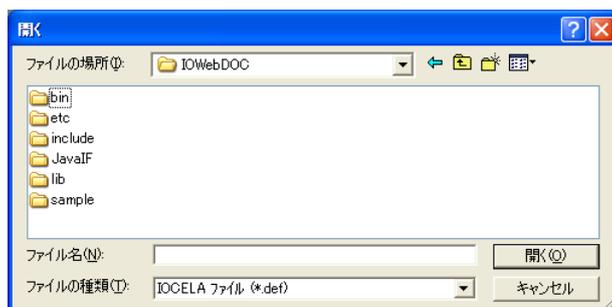
新規作成またはリストから選択したデータのフォーマットが表示されます。

※データ部作成後、「OK」ボタンをクリックすると、帳票イメージが初期画面に表示されます。

レイアウト初期設定の設定を取消しする場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。画面が終了します。

5.3.2 開く

メニューバーのファイル→[開く]を選択してください。「開く」画面が表示されます。



ファイル名を入力または選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。

指定したファイルを読み込み、「初期」画面に表示します。

読み込みの実行の取消しをしたい時は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。画面が終了します。

5.3.3 上書き保存

メニューバーのファイル→[上書き保存]を選択してください。

それ以前に[名前を付けて保存]で設定された、ファイル名、保存場所に保存します。

ファイルが保存されていない時に上書き保存を実行した場合は、「名前を付けて保存」画面が表示されます。

5.3.4 名前を付けて保存

メニューバーのファイル→[名前を付けて保存]を選択してください。

「名前を付けて保存」画面が表示されます。



現在、作業中の帳票を指定されたファイル名で保存します。

保存する場所を選択し、ファイル名を入力後、「保存」ボタンをクリックしてください。

指定された場所に指定されたファイル名で保存されます。

保存の実行の取消しをしたい時は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。画面が終了します。

5.3.5 プレビュー

メニューバーのファイル→[プレビュー]を選択してください。

「プレビュー」画面が表示されます。

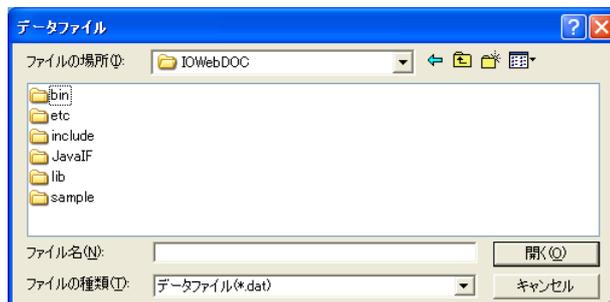


この画面で、作業中の帳票をプレビューに出力する設定を行います。

- データ
プレビューを実行時のデータを指定します。

項目名	説明
「参照」ボタン	ファイルを指定します。 「参照」ボタンをクリックしてください。「データファイル」画面が表示します。
「編集」ボタン	指定したデータを開きます。 ボタン上部に指定したファイルが開きます。開いたデータは編集することができます。
「作成」ボタン	データを作成します。 ファイルは、ボタン上部に指定した名前で作成されます。

- 「データファイル」画面
「参照」ボタンをクリックすると、「データファイル」画面が表示されます。



プレビューに出力する時の実際のデータファイルを指定します。

埋め込みたいデータファイルの、ファイル名を入力または選択し、「開く」ボタンをクリックしてください。

選択したファイルがプレビュー画面のデータに表示されます。

データファイルの実行の取消しをしたい時は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。画面が終了します。

- 実行フォルダ
「参照」ボタンをクリックして、実行フォルダを選択できます。
実行フォルダ配下にデータファイルが存在する場合はこちらを使用します。

- テストデータ実行
「テストデータ実行」ボタンをクリックすると、作成した帳票イメージがプレビューに出力されます。
- • 実データ実行
データファイル選択後、「実データ実行」ボタンをクリックしてください。
選択したデータファイルのデータを埋め込んだ帳票が、プレビューに表示されます。

「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

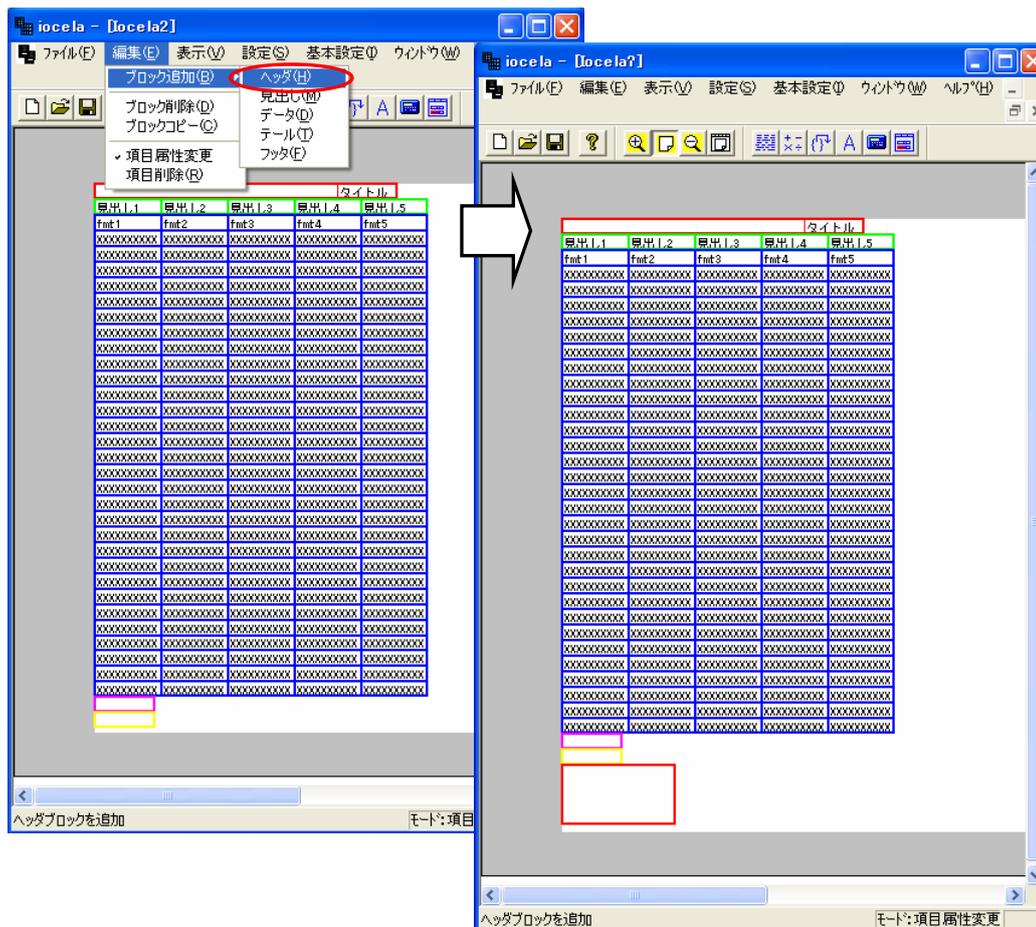
5.4 編集

5.4.1 ブロック追加

メニューバーの編集→[ブロック追加]を選択してください。

ブロック追加のプルダウンメニューにヘッダー、見出し、データ、テール、フッターが表示されます。

ヘッダーをクリックすると、ヘッダー部が作成されます。



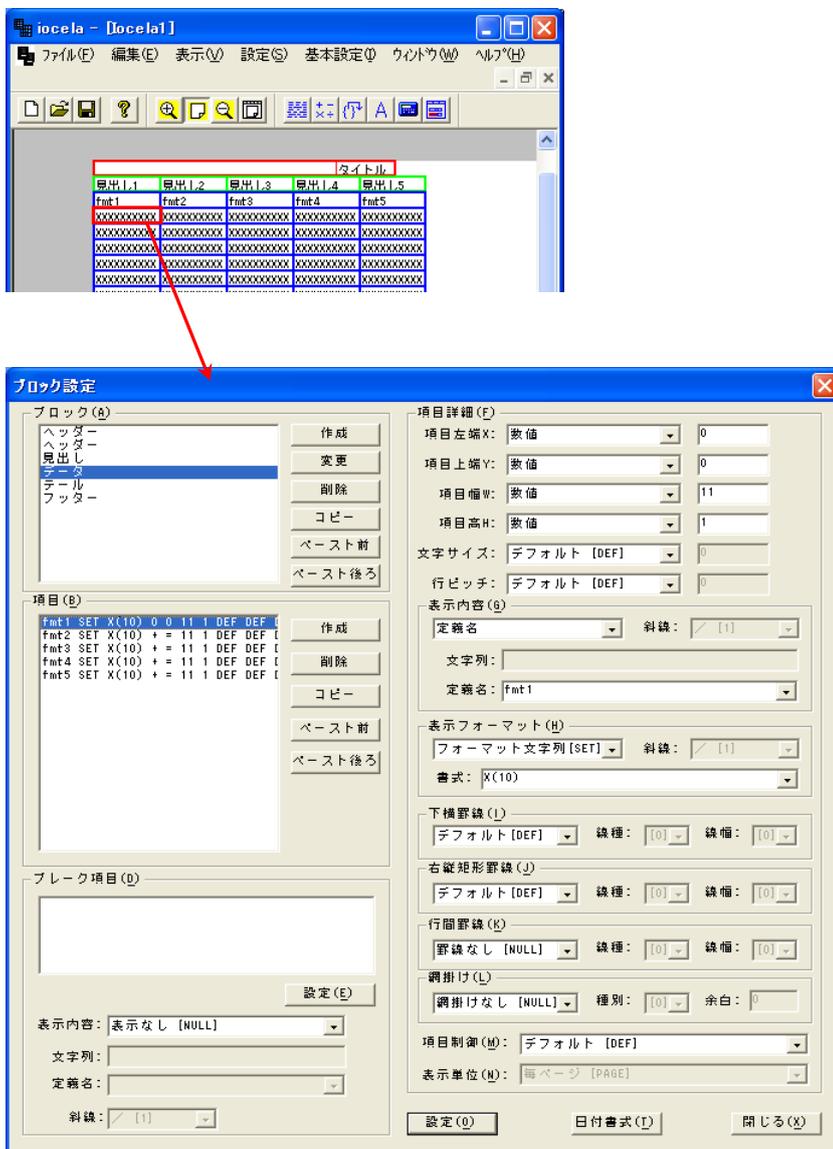
以下、見出し、データ、テール、フッターも同様の作業で追加する事ができます。

- ヘッダー : 帳票のタイトル、年月日等を表示
- 見出し : データ部の項目名等を表示
- データ : データファイルの内容を表示
- テール : 合計、平均値等を表示
- フッター : 合計、脚注、タイトル等を表示

5.4.4 項目属性変更

メニューバーの編集→[項目属性変更]を選択してください。

画面に表示されているブロックをクリックすると、クリックしたブロックを選択した状態の「ブロック設定」画面が表示されます。



この画面で、ブロックの内容を設定します。

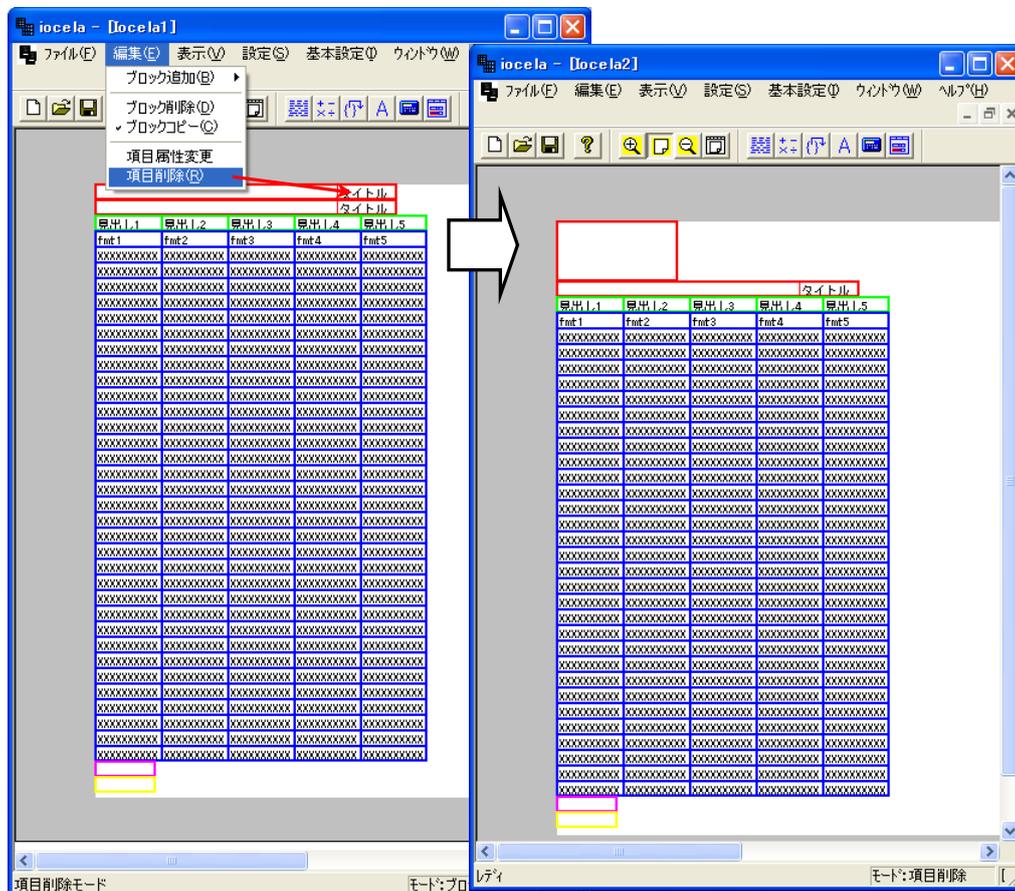
注意

「ブロック設定」画面の詳細については、「5.6.6 ブロック」をご参照ください。

5.4.5 項目削除

メニューバーの編集→[項目削除]を選択してください。

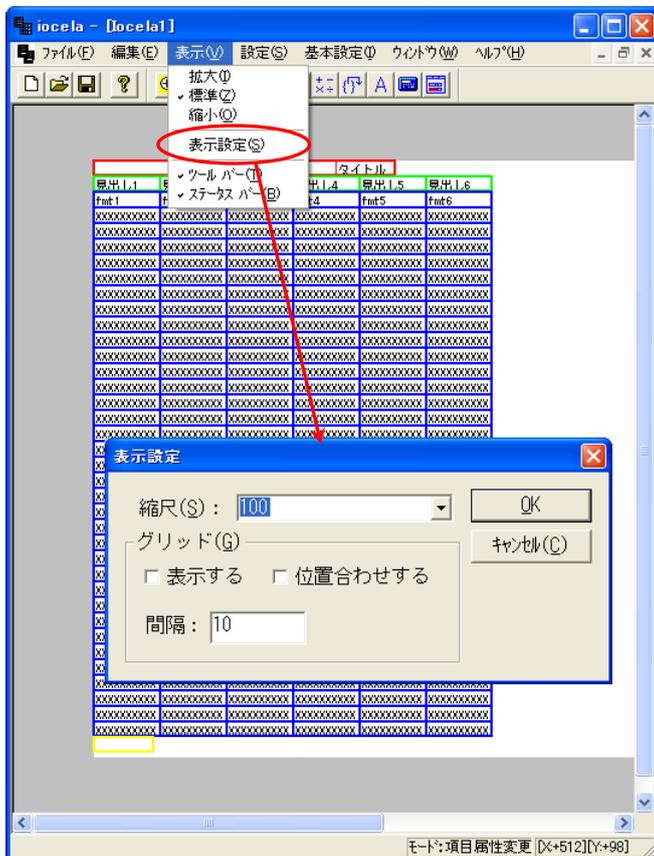
クリックした項目が削除されます。



5.5.3 表示設定

メニューバーの表示→[表示設定]を選択してください。

「表示設定」画面が表示されます。



この画面で縮尺の設定、グリッドの設定を行います。

- 縮尺
クリックするとコンボボックスが開きます。
リストから選択、または数値の入力による詳細な指定も可能です。
- グリッド
画面に表示される一定間隔の点です。
オブジェクトをマウスで移動する時の位置の目安になります。

項目名	説明
表示する	チェックボックスに✓印が表示されている場合、グリッドを表示します。 グリッドを表示しない場合は、✓印を外してください。
位置合わせする	チェックボックスに✓印が表示されている場合、グリッドに位置を合わせます。 グリッドに位置を合わせない場合は、✓印を外してください。
間隔	グリッドの間隔を設定します。

5.6 設定

5.6.1 データ形式

メニューバーの設定→[データ形式]を選択してください。
「データ形式設定」画面が表示されます。

この画面でフォーマットの作成、データタイプ設定等を行います。

- データタイプ
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
固定長データ	フィールドがカラム位置で決定されるフォーマットです。
可変長データ	フィールドがデータ区切り文字で決定されるフォーマットです。

- 区切り文字
データの区切りを示す文字を入力します。
「データタイプ」に[可変長データ]を選択時、入力してください。
- 1レコード最大長
1レコードの最大長を設定します。データの最大バイト数+100 バイトを設定してください
(半角カタカナデータは 2 バイト文字で計算してください。)

- 定義状態

リストには定義名が表示されます。

項目名	説明
「追加」ボタン	定義名を追加します。 「追加」ボタンをクリックしてください。新しい定義名が追加されます。
「削除」ボタン	定義名を削除します。 リストから削除する定義名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 定義名が削除されます。
「コピー」ボタン 「前へペースト」ボタン 「後へペースト」ボタン	定義名をコピーします。 リストからコピーする定義名を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「前へペースト」ボタンまたは、「後へペースト」ボタンをクリックしてください。 定義名がコピーされます。

- 定義名

データの定義名です。

定義状態のリストから選択すると、選択した定義名が表示されます。

選択時、入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

- データ長

[データタイプ]が固定長データの時、定義状態のリストから選択すると、入力フィールドが有効になります。

入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

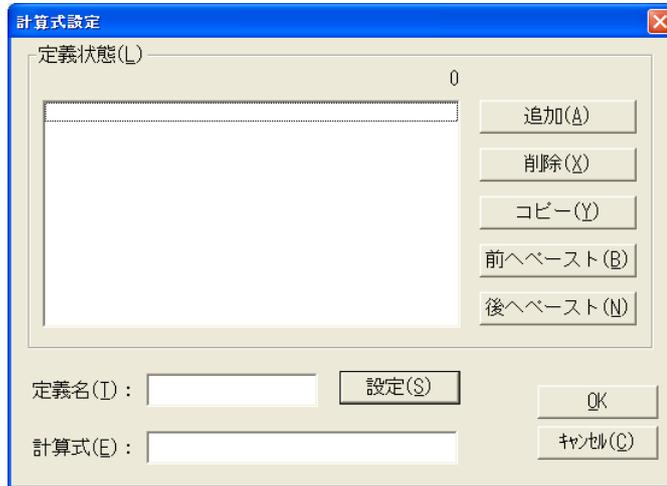
※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

5.6.2 計算式

メニューバーの設定→[計算式]を選択してください。

「計算式設定」画面が表示されます。



この画面でデータの計算式を設定します。

- 定義状態

リストには計算式定義名と計算式が表示されます。

項目名	説明
「追加」ボタン	計算式定義名を追加します。 「追加」ボタンをクリックしてください。新しい計算式定義名が追加されます。
「削除」ボタン	計算式定義名を削除します。 リストから削除する計算式定義名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 計算式定義名が削除されます。
「コピー」ボタン 「前へペースト」ボタン 「後へペースト」ボタン	計算式定義名をコピーします。 リストからコピーする計算式定義名を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「前へペースト」ボタンまたは、「後へペースト」ボタンをクリックしてください。 計算式定義名がコピーされます。

- 定義名

計算式の定義名です。

定義状態のリストから選択すると、選択した定義名が表示されます。

選択時、入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

- 計算式

定義状態のリストから選択すると、選択した計算式が表示されます。

選択時、入力フィールドに新たな計算式を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

5.6.3 ブレーク

メニューバーの設定→[ブレーク]を選択してください。

「ブレーク設定」画面が表示されます。

この画面で演算(小計、合計)の定義や改ページの定義を行うタイミングを設定します。

- ブレークタイピング

リストにはブレーク定義名とブレークさせる対象定義名が表示されます。

項目名	説明
「作成」ボタン	ブレーク定義名を作成します。 「作成」ボタンをクリックしてください。新しいブレーク定義名が作成されます。
「削除」ボタン	現在作成されているブレーク定義名を、削除します。 リストから削除するブレーク定義名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 ブレーク定義名が削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後」ボタン	ブレーク定義名をコピーします。 リストからコピーするブレーク定義名を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「ペースト前」ボタンまたは、「ペースト後」ボタンをクリックしてください。 ブレーク定義名がコピーされます。
ブレーク定義名	対象定義名を設定する時に使用します。 ブレークタイピングのリストから選択すると、選択したブレーク定義名が表示されます。 選択時、入力フィールドに新たなブレーク定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。
対象定義名	ブレークするタイミングの定義を指定します。 リストから選択するか、入力フィールドに対象定義名を入力してください。

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

- 改ページ設定

改ページさせる定義名を指定します。

項目名	説明
対象定義名	リストから選択するか、入力フィールドに対象定義名を入力してください。

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

- ブレイク詳細

リストにはブレイク定義名と罫線の設定等が表示されます。

項目名	説明
「作成」ボタン	ブレイク詳細内容を作成します。 「作成」ボタンをクリックしてください。新しいブレイク詳細内容が作成されます。
「削除」ボタン	ブレイク詳細内容を削除します。 リストから削除するブレイク詳細内容を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 ブレイク詳細内容が削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後」ボタン	ブレイク詳細内容をコピーします。 リストからコピーするブレイク詳細内容を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「ペースト前」ボタンまたは、「ペースト後」ボタンをクリックしてください。 ブレイク詳細内容がコピーされます。

- ブレイク名

ブレイク時の表示する内容を設定します。

項目名	説明
ブレイク名	クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。 定義名 : ブレイク時の定義名の内容を表示します。 最終合計 : 全ての合計を表示します。
対象定義名	[ブレイク名]で定義名を選択した時のブレイクする定義名を指定します。 リストから選択するか、入力フィールドに対象定義名を入力してください。

- 上行罫線

ブレイクした時の上行の罫線の設定です。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[特定罫線[TOK]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定／特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。
[罫線なし[NULL]]	上行罫線を表示しません。
[線種・線幅 [SET]]	線種(0～4)、線幅(0～9)のリストボックスから選択します。 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定／特定罫線設定」画面で設定された線種、線幅が適用されます。
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ上行罫線となります。

- 下行罫線

ブレイクした時の下行の罫線の設定です。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[特定罫線[TOK]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定／特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。
[罫線なし[NULL]]	下行罫線を表示しません。
[線種・線幅 [SET]]	線種(0～4)、線幅(0～9)のリストボックスからクリックして選択します。 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定／特定罫線設定」画面で設定された線種、線幅が適用されます。
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ下行罫線となります。

- 網掛け

ブレイクした時の下行の罫線の設定です。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[網掛けなし[NULL]]	網掛けを表示しません。
[種別・間隔 [SET]]	種別 (0～9)はリストボックスから選択し、間隔(余白)は数値入力します。 0: 透明 1:  2:  3:  4:  5:  6:  7:  8:  9: 
[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「網掛け設定」画面で設定された網掛けが適用されます。
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ網掛けとなります。

•省略

ブレークするまでデータの表示を省略することができます。

項目名	説明
する	チェックボックスに✓印が表示されている場合、省略します。 省略しない場合は、✓印を外してください。
データ部項目番号	省略をするにした時、どのデータ部を省略するか入力します。 データ部の番号は、画面左から数えた番号です。データと罫線が省略されます。 例:データ部が5つあるうち、3つめまで省略する データ部項目番号:1 2 3

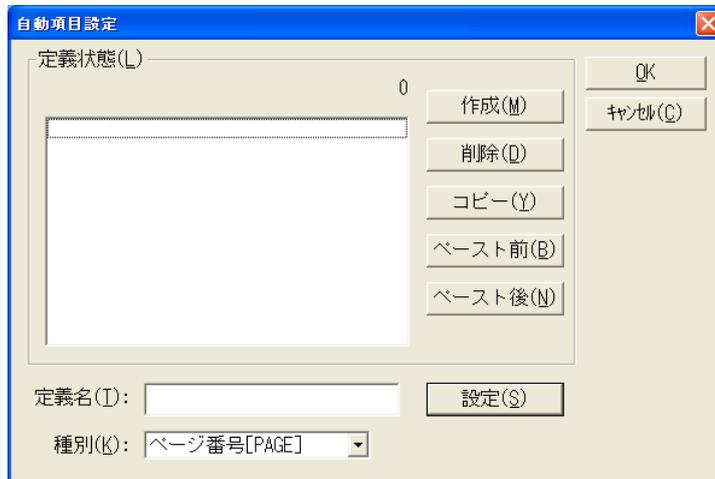
※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

5.6.4 自動項目

メニューバーの設定→[自動項目]を選択してください。

「自動項目設定」画面が表示されます。



帳票にページ番号や、現在の日付を出力する設定です。

- 定義状態

リストには自動項目定義名と種別が表示されます。

項目名	説明
「作成」ボタン	自動項目定義名を作成します。 「作成」ボタンをクリックしてください。新しい自動項目定義名が作成されます。
「削除」ボタン	自動項目定義名を削除します。 リストから削除する自動項目定義名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 自動項目定義名が削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後」ボタン	自動項目定義名をコピーします。 リストからコピーする自動項目定義名を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「ペースト前」ボタンまたは「ペースト後」ボタンをクリックしてください。 自動項目定義名がコピーされます。

- 定義名

自動項目の定義名です。

定義状態のリストから選択すると、選択した自動項目の定義名が表示されます。

選択時、入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

• 種別

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[ページ番号[PAGE]]	ページ番号を表示します。このページ番号は、シーケンシャル番号です。
[年[YEAR]]	西暦年を表示します。
[月[MONT]]	月を表示します。
[日[DAY]]	日を表示します。

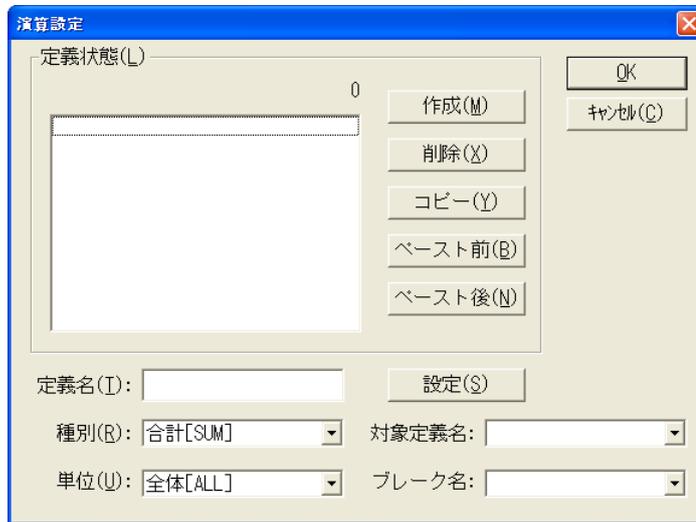
※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

「OK」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

5.6.5 演算

メニューバーの設定→[演算]を選択してください。

「演算設定」画面が表示されます。



この画面で小計、合計等の計算をするタイミングと出力方法を設定します。

- 定義状態

リストには演算定義名と種別等が表示されます。

項目名	説明
「作成」ボタン	演算定義名を作成します。 「作成」ボタンをクリックしてください。新しい演算定義名が作成されます。
「削除」ボタン	演算定義名を削除します。 リストから削除する演算定義名を選択し、削除ボタンをクリックしてください。 演算定義名が削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後」ボタン	演算定義名をコピーします。 リストからコピーする演算定義名を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「ペースト前」ボタンまたは、「ペースト後」ボタンをクリックしてください。 演算定義名がコピーされます。

- 定義名

演算の定義名です。

定義状態のリストから選択すると、選択した演算の定義名が表示されます。

選択時、入力フィールドに新たな定義名を入力し、「設定」ボタンをクリックすることで変更ができます。

- 種別

演算の種別を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[件数[CNT]]	件数をカウントします。
[合計[SUM]]	合計値を計算します。
[平均[AVG]]	平均値を計算します。

- 対象定義名
[種別]で[合計[SUM]]または、[平均[AVG]]を選択した時、実行する定義名を選択します。
リストから選択するか、入力フィールドに対象定義名を入力してください。
- 単位
演算を実行するタイミングを設定します。
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択します。

項目名	説明
[全体[ALL]]	帳票が全部表示されるまで演算を実行します。
[ページ[PAGE]]	ページが変わるまで演算を実行します。
[ブレイク[ITEM]]	設定値にてブレイクするまで演算を実行します。

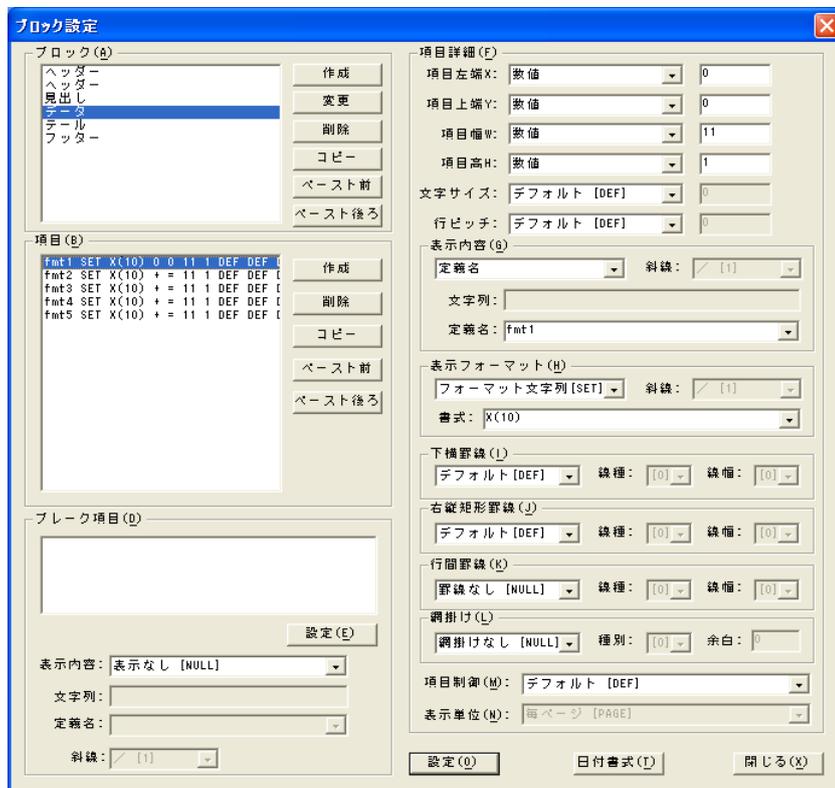
- ブレイク名
[単位]で[ブレイク[ITEM]]を選択した時、ブレイク定義名を設定します。
リストから選択するか、入力フィールドにブレイク名を入力してください。

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。
「OK」ボタンをクリックすると画面が終了します。

5.6.6 ブロック

メニューバーの設定→ブロックを選択してしてください。

「ブロック設定」画面が表示されます。



• ブロック

リストにはブロックが表示されます。

クリックして選択することができます。

項目名	説明
「作成」ボタン	ブロックを作成します。 「作成」ボタンをクリックしてください。「ブロックの種類を選択」ダイアログが開きます。 種類のリストボックスから作成したいブロック名を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。 ブロックが作成されます。
「変更」ボタン	現在作成されているブロックを変更します。 「変更」ボタンをクリックします。「ブロックの種類を選択」ダイアログが開きます。 種類のリストボックスから変更したいブロック名を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。 ブロックが変更されます。
「削除」ボタン	現在作成されているブロックを削除します。 リストから削除するブロックを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 ブロックが削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後ろ」ボタン	ブロックをコピーします。 リストからコピーするブロックを選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 次に「ペースト前」ボタンまたは、「ペースト後ろ」ボタンをクリックしてください。 ブロックがコピーされます。

- 項目

リストにはブロックに属している項目が表示されます。
クリックして選択することができます。

項目名	説明
「作成」ボタン	ブロックに属する項目を作成します。 リストから作成するブロックを選択し、「作成」ボタンをクリックしてください。 ブロックに属する項目が作成されます。
「削除」ボタン	ブロックに属している項目を削除します。 リストから削除するブロックを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。 ブロックに属する項目が削除されます。
「コピー」ボタン 「ペースト前」ボタン 「ペースト後ろ」ボタン	ブロックに属している項目をコピーします。 リストからコピーする項目を選択し、「コピー」ボタンをクリックしてください。 「ペースト前」ボタンまたは、「ペースト後ろ」ボタンをクリックしてください。 ブロックに属している項目がコピーされます。

- ブレイク項目

リストにはブレイク項目が表示されています。
ブレイク項目はメニューバーの設定の「ブレイク設定」画面で作成されたものです。
作成されていない場合は、設定を行うことはできません。
リストから選択後、表示内容メニューを選択してください。

項目名	説明						
[表示なし[NULL]]	何も表示しません。						
[文字列]	文字列の入力フィールドが有効になります。表示させる文字列を入力してください。						
[定義名]	定義名のコンボボックスが有効になります。 メニューから選択するか、入力フィールドに定義名を入力してください。						
[斜線[SLN]]	該当データが無い場合斜線を表示します。 斜線のメニューから斜線種別をクリックして選択してください。						
斜線種別	<table border="0"> <tr> <td>／ [1]:</td> <td>／の斜線を表示します。</td> </tr> <tr> <td>＼ [2]:</td> <td>＼の斜線を表示します。</td> </tr> <tr> <td>× [3]:</td> <td>×の斜線を表示します。</td> </tr> </table>	／ [1]:	／の斜線を表示します。	＼ [2]:	＼の斜線を表示します。	× [3]:	×の斜線を表示します。
／ [1]:	／の斜線を表示します。						
＼ [2]:	＼の斜線を表示します。						
× [3]:	×の斜線を表示します。						

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

- 項目詳細

ここで各項目についての詳細な設定を行います。

項目名	説明	
項目左端X	項目の開始位置を設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[数値]	横にある入力フィールドに任意の数値を入力してください。
	[直前データに接続[+]]	直前データとの相対位置になります。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ位置になります。
項目上端Y	項目の開始位置を設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[数値]	横にある入力フィールドに任意の数値を入力してください。
	[直前データに接続[+]]	直前データとの相対位置になります。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ位置になります。
項目幅 W	項目の幅を設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[数値]	横にある入力フィールドに、任意の数値を入力してください。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ位置になります。
	[領域余白[FIT]]	領域ごとの、残りのXサイズに合わせます。
項目高 H	項目の高さを、設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストからから選択してください。	
	[数値]	横にある入力フィールドに任意の数値を入力してください。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ位置になります。
文字サイズ	項目の文字サイズを設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストからから選択してください。	
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「フォント／行ピッチ」のフォント設定画面で設定された値が適用されます。
	[数値]	横にある入力フィールドに任意の数値を入力してください。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ文字サイズになります。
行ピッチ	項目の行ピッチを設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストからから選択してください。	
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「フォント／行ピッチ」のフォント設定画面で設定された値が適用されます。
	[数値]	横にある入力フィールドに任意の数値を入力してください。
	[直前データに同じ[=]]	直前データとの同じ行ピッチになります。

項目名	説明						
表示内容	項目に表示する、内容を設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。						
	[表示なし[NULL]]	何も表示しません。					
	[文字列]	文字列の入力フィールドに表示させる文字列を入力してください。					
	[定義名]	定義名のコンボボックスが有効になります。メニューから選択するか、入力フィールドに定義名を入力してください。					
	[斜線[SLN]]	該当データが無い場合斜線を表示します。 斜線のリストボックスから斜線種別を選択してください。 斜線種別 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>／ [1]:</td> <td>／の斜線を表示します。</td> </tr> <tr> <td>＼ [2]:</td> <td>＼の斜線を表示します。</td> </tr> <tr> <td>× [3]:</td> <td>×の斜線を表示します。</td> </tr> </table>	／ [1]:	／の斜線を表示します。	＼ [2]:	＼の斜線を表示します。	× [3]:
／ [1]:	／の斜線を表示します。						
＼ [2]:	＼の斜線を表示します。						
× [3]:	×の斜線を表示します。						
[直前データと同じ[=]]	直前データとの同じ表示内容になります。						
表示フォーマット	データ表示時、データファイルのフォーマットと異なる表示をしたい時などに設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。						
	[フォーマットなし[NULL]]	フォーマットの設定を行いません。					
	[フォーマット文字列 [SET]]	定義名のコンボボックスが有効になります。メニューから選択するか、入力フィールドに任意の文字列を入力してください。 ※一度入力した文字列はリストボックスに登録されます。 二回目以降の文字列はリストから選択することができます。					
	[データ空時斜線 [SLN]]	データが無い時に斜線を表示します。 斜線のリストメニューから斜線種別を選択してください。					
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じフォーマット文字列となります。						
下横罫線	項目に対する下側の罫線の設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。						
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。					
	[特定罫線[TOK]]	メニューバーの基本設定の「特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。					
	[線種・線幅 [SET]]	線種(0～4)・線幅(0～9)のリストボックスから選択します。 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線					
	[罫線なし[NULL]]	下横罫線を表示しません。					
	[矩形罫線[RCT]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定／特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。					
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ下横罫線となります。						
右縦・矩形罫線	項目に対する右側縦、矩形罫線の設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。						
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「デフォルト罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。					
	[特定罫線[TOK]]	メニューバーの基本設定の「特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。					
	[線種・線幅 [SET]]	線種(0～4)・線幅(0～9)のリストボックスから選択します。 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線					
	[罫線なし[NULL]]	下横罫線を表示しません。					
	[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ下横罫線となります。					

項目名	説明	
行間罫線	複数行の項目に対して、行間に罫線を表示する設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの設定の「デフォルト罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。
	[特定罫線[TOK]]	メニューバーの設定の「特定罫線設定」画面で設定された線種が適用されます。
	[線種・線幅 [SET]]	線種(0~4)・線幅(0~9)のリストボックスから選択します。 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
	[罫線なし[NULL]]	下横罫線を表示しません。
	[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ下横罫線となります。
網掛け	項目に対する、網掛けの設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[網掛けなし[NULL]]	網掛けを表示しません。
	[種別・間隔 [SET]]	種別メニューからクリックして選択し、余白に数値入力します。 0: 透明 1:  2:  3:  4:  5:  6:  7:  8:  9: 
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「網掛け設定」画面で設定された網掛けが適用されます。
	[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ網掛けとなります。
項目制御	データが項目領域を超えている場合等の制御の設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[デフォルト[DEF]]	メニューバーの基本設定の「項目制御」画面で設定された項目制御が適用されます。
	[制御なし[NULL]]	項目制御を行いません。
	[可変行分割[DIV]]	項目の行数を、自動的に増やします。
	[文字サイズ自動縮小[SIZ]]	データの文字サイズを縮小します。
	[データカット[CUT]]	入りきらないデータをカットします。
	[固定行分割[FIX]]	設定されている項目の行数以上は、カットします。
[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ項目制御となります。	
表示単位	テール部、フッター部のみの表示設定です。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	
	[毎ページ[PAGE]]	ページ毎に、表示します。
	[最終ページのみ[END]]	最終ページのみ表示します。
	[直前データと同じ[=]]	直前のデータと同じ項目制御となります。

※設定後、「設定」ボタンをクリックしてください。

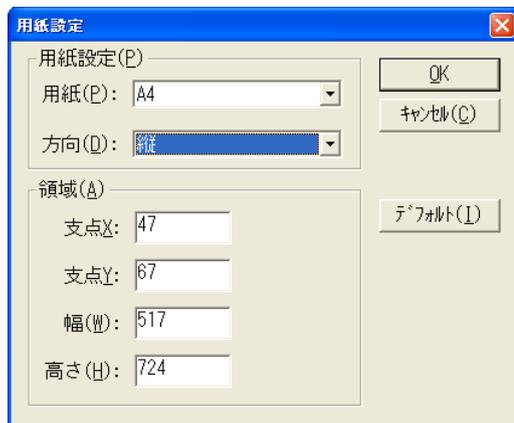
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面が終了します。

5.7 基本設定

5.7.1 用紙設定

メニューバーの基本設定→[用紙設定]を選択してください。

「用紙設定」画面が表示されます。



この画面で帳票の用紙サイズ、用紙方向、領域を設定します。

- 用紙サイズ

帳票の用紙サイズを設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

- 用紙方向

帳票の方向を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

- 領域

用紙設定の設定を反映し、自動的に入力されます。

変更したい場合は、手入力も可能です。入力フィールドに任意の数値を入力してください。

また、領域の数値を変更時、「デフォルト」ボタンをクリックすると、用紙設定の設定を反映した数値が表示されます。

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.2 フォント／行ピッチ

メニューバーの基本設定→[フォント／行ピッチ]を選択してください。

「フォント設定」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックの行ピッチ、文字サイズ外枠罫線を設定します。

- 行ピッチ

行ピッチの設定をします。

入力フィールドに任意の数値を入力してください。

- サイズ

文字サイズの設定をします。

入力フィールドに任意の数値を入力してください。

- 書体

書体の設定をします。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

(ゴシック体／明朝体)

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.3 データ部行数

メニューバーの基本設定→[データ部行数]を選択してください。

「データ部行数」画面が表示されます。



この画面でデータ部の行数を設定します。

- 自動
チェックボックスに✓印が表示されている場合、データ部の行数は高さの指定値から自動で計算され設定されます。
自動で設定しない場合は、✓印を外してください。
- 行
自動の✓印を外した時、入力フィールドが有効になります。
入力フィールドに任意の数値を入力してください。

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

5.7.4 罫線表示

メニューバーの基本設定→[罫線表示]を選択してください。

「罫線表示」画面が表示されます。



この画面で帳票の罫線の表示/非表示を設定します。

- 罫線を表示する
チェックボックスに✓印が表示されている場合、罫線は表示されます。
罫線を表示しない場合は、✓印を外してください。

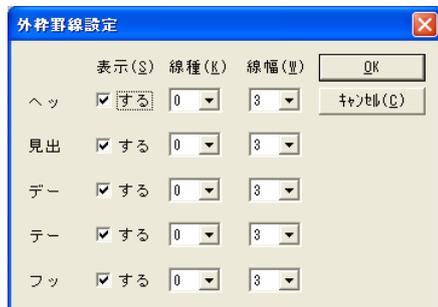
※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.5 外枠罫線

メニューバーの基本設定→[外枠罫線]を選択してください。

「外枠罫線」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックの外枠罫線を設定します。

- 表示

それぞれのブロックの外枠罫線の表示/非表示の設定をします。
チェックボックスに✓印が表示されている場合、罫線は表示されます。
罫線を表示しない場合は、✓印を外してください。

- 罫線種

外枠罫線を表示する場合、罫線種を設定します。
表示に✓印が表示されている場合、リストボックスが有効になります。
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。(0~4 まで)
0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線

- 罫線幅

外枠罫線を表示する場合、罫線幅を設定します。
表示に✓印が表示されている場合、リストボックスが有効になります。
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。(0~9 まで)

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.6 デフォルト罫線設定

メニューバーの基本設定→[デフォルト罫線設定]を選択してください。

「デフォルト罫線設定」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックのデフォルト罫線を設定します。

• 縦

選択されたブロックの縦の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線幅を設定します。(0~9 まで)

• 横

選択されたブロックの横の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線幅を設定します。(0~9 まで)

• 矩形

選択されたブロックの矩形部分の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線幅を設定します。(0~9 まで)

- 縦横矩形

選択されたブロック縦横矩形の罫線を設定します。

項目名	説明
同期	OK ボタン押下時に縦、横、矩形の設定を同一設定にします。

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.7 特定罫線設定

メニューバーの基本設定→[特定罫線設定]を選択してください。

「特定罫線設定」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックの特定罫線を設定します。

- 縦

選択されたブロックの縦の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~9 まで)

- 横

選択されたブロックの横の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~9 まで)

- 矩形

選択されたブロックの矩形部分の罫線を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
線種	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~4 まで) 0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線
線幅	罫線を表示する時の線種を設定します。(0~9 まで)

- 縦横矩形

選択されたブロックの縦横矩形の罫線を設定します。

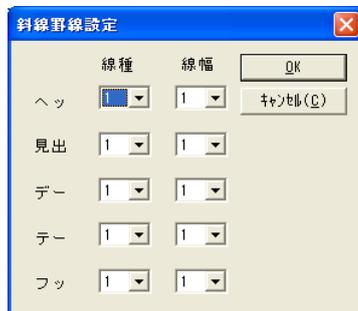
項目名	説 明
同期	OK ボタン押下時に縦、横、矩形の設定を同一設定にします。

- ※ 設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。
「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.8 斜線罫線

メニューバーの基本設定→[斜線罫線]を選択してください。

「斜線罫線」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックの斜線罫線を設定します。

- 線種

選択されたブロックの罫線を表示する時の線種を設定します。(0～4 まで)

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

0: 実線 1: 破線 2: 鎖線 3: 一点鎖線 4: 二点鎖線

- 線幅

選択されたブロックの罫線を表示する時の線幅を設定します。(0～9 まで)

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

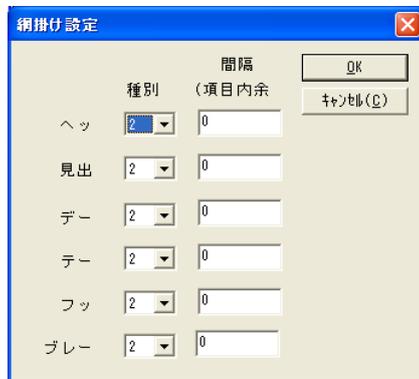
※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.9 網掛け設定

メニューバーの基本設定→[網掛け設定]を選択してください。

「網掛け」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックの網掛けを設定します。

- 種別

選択されたブロックの網掛けの種別を設定します。(0~4 まで)
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

0: 透明 1:  2:  3:  4: 

- 間隔(項目内余白)

選択されたブロックの網掛けの間隔を設定します。

入力フィールドに任意の数値を入力してください。

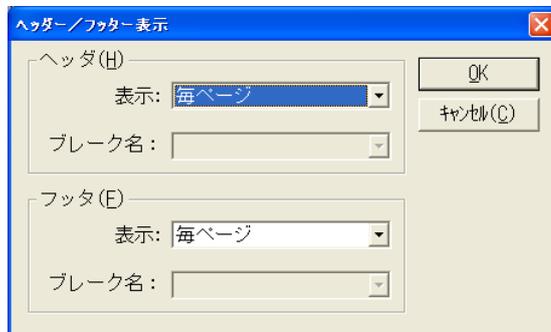
※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.10 ヘッダー／フッター表示

メニューバーの基本設定→[ヘッダー／フッター表示]を選択してください。

「ヘッダー／フッター表示」画面が表示されます。



この画面で、帳票出力時にヘッダー(タイトル等)と、フッター(合計値等)の表示の設定をします。

●ヘッダー設定

ヘッダーの表示指定を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明	
表示	どのタイミングで表示するのかが設定します。 クリックするとリストメニューが開きます。リストから選択してください。	
	[毎ページ]	ページごとに表示します。
	[開始ページのみ]	ヘッダーを選択した時、これが表示されます。 最初のページのみ表示となります。
	[ブレイク時]	ブレイクした時に表示させる設定となります。
ブレイク名	[表示]で[ブレイク時]を選択した時に設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	

●フッター設定

フッターの表示指定を設定します。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明	
表示	どのタイミングで表示するのかが設定します。 クリックするとリストメニューが開きます。リストから選択してください。	
	[毎ページ]	ページごとに表示します。
	[終了ページのみ]	フッターを選択した時、これが表示されます。 終了のページのみ表示となります。
	[ブレイク時]	ブレイクした時に表示させる設定となります。
ブレイク名	[表示]で[ブレイク時]を選択した時に設定します。 クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。	

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.11 単位設定

メニューバーの基本設定→[単位設定]を選択してください。

「単位設定」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのブロックのレイアウトとデータの表示する始点、幅、高さの単位を設定します。

- 行・桁[COL]

選択されたブロックの始点・高さを行で、始点・幅を桁で、レイアウト作成できるように設定します。
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

- ポイント[PNT]

選択されたブロックの始点・幅・高さをポイントでレイアウト作成できるように設定します。
クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.12 項目制御

メニューバーの基本設定→[項目制御]を選択してください。

「項目制御」画面が表示されます。

この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターのデータが項目の表示領域を超えた時のデータ表示分割の設定をします。

- 単数

選択されたブロックのデータタイプが単数行の場合の設定をします。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[制御なし[NULL]]	項目制御を行いません。
[可変行分割[DIV]]	項目の行数を、自動的に増やします。
[文字サイズ自動縮小[SIZ]]	データの文字サイズを縮小します。
[データカット[CUT]]	入りきらないデータをカットします。
[固定行分割[FIX]]	設定されている項目の行数以上は、カットします。

- 複数

選択されたブロックのデータタイプが複数行の場合の設定をします。

クリックするとリストボックスが開きます。リストから選択してください。

項目名	説明
[制御なし[NULL]]	項目制御を行いません。
[可変行分割[DIV]]	項目の行数を、自動的に増やします。
[文字サイズ自動縮小[SIZ]]	データの文字サイズを縮小します。
[データカット[CUT]]	入りきらないデータをカットします。
[固定行分割[FIX]]	設定されている項目の行数以上は、カットします。

※設定後、「OK」をクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

5.7.13 ページ分割

メニューバーの基本設定→[ページ分割]を選択してください。

「ページ分割」画面が表示されます。



この画面でヘッダー、見出し、データ、テール、フッターにデータが帳票の表領域を超えた時、ページ分割して出力させる設定をします。

- ページ分割

データが表領域を超えた時、選択されたブロックごとに分割して出力させる設定です。

チェックボックスに✓印が表示されている場合、ページ分割されます。

ページ分割しない場合は、✓印を外してください。

- 領域補正

[ページ分割]に✓印を表示時、データの区切れにより罫線等が切れてしまう場合があります。

これを回避するための設定です。

チェックボックスに✓印が表示されている場合、領域補正されます。

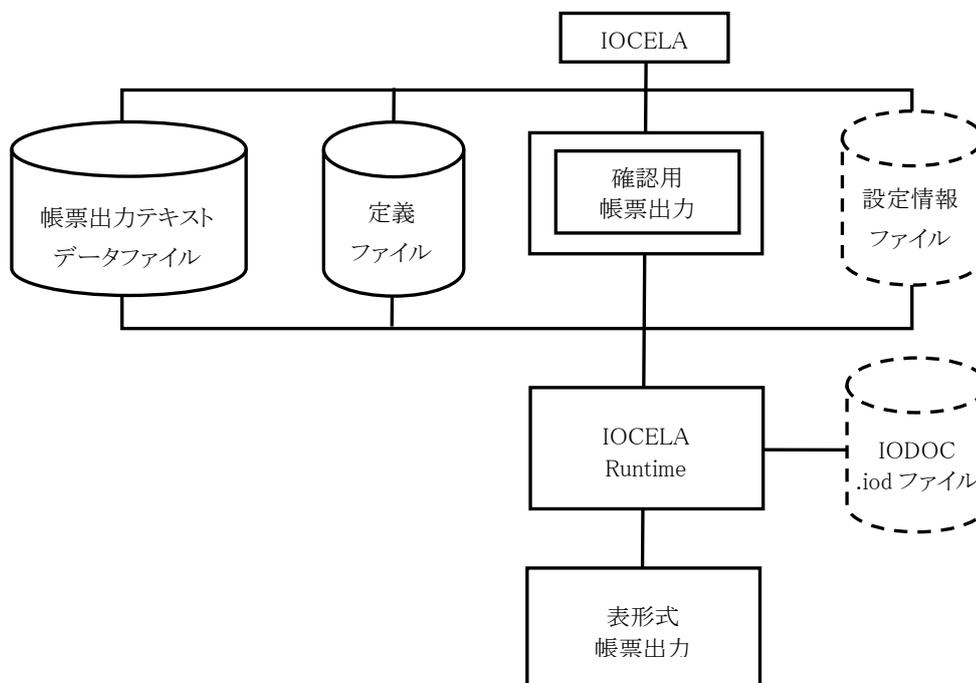
領域補正をしない場合は、✓印を外してください。

※設定後、「OK」ボタンをクリックしてください。設定が反映し、画面が終了します。

「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定は反映せずに画面が終了します。

6 構成図

6.1 IOCELAの構成図



IOCELAの基本的な応用は定義ファイルを作成し、データファイルを帳票化することにあります。複数の帳票で使われる共通の要素(文字サイズ等)を設定情報ファイルに保存し共用することも可能です。(「5.6 設定」を参照してください。)

IOCELAのレイアウトのベースにIODOCで作成したレイアウトを使用することも可能です。これによってより多彩な帳票を作成することができます。

IOCELAで作成したレイアウトの帳票の出力についてはランタイムのマニュアルで詳述します。

7 使用上のヒントおよびエラーメッセージ

7.1 ブレークと演算の定義を設定する

7.1.1 ブレーク設定

ブレークを設定する時は、以下の方法で設定します。

- 1)「ブレーク設定」画面で、ブレーク定義名を作成する。
- 2)作成したブレーク定義名の詳細を作成する。
- 3)ブレークさせるブロックの項目に、ブレーク定義名を定義する。

7.1.2 演算の定義

演算を定義する時は以下の方法で定義します。

- 1)「演算設定」画面で演算定義名を作成する。
- 2)作成した演算定義名に各設定をする。
- 3)「ブロック設定」画面で演算するブロックの項目の表示内容に演算定義名を定義する。

上記手順で、ブレーク設定と演算定義を設定します。

詳細な操作方法は、「4. ブレーク設定」をご覧ください。

7.2 ページや年月日を表示する

ページや、帳票を出力した時の日付を表示する時は、以下の方法で設定します。

- 1)「自動項目設定」画面で、自動項目定義名を作成する。
- 2)自動項目定義名に、何を表示させるかメニューから選択して設定する。
- 3)「ブロック設定」画面で、自動項目とするブロックの項目詳細の表示内容に、自動項目定義名を定義する。

上記手順で、自動項目を設定します。

詳細な操作方法は、「5.6.4 自動項目設定画面」をご覧ください。

7.3 何もないところから、レイアウトを作る

新規作成から作成する。

- 1)「初期」画面のメニューバーのファイル→[新規作成]を選択する。
- 2)「新規作成」画面で作成するブロックとデータ部の個数を設定する。
- 3)「ブロック設定」画面で詳細を設定する。

- ※ Microsoft、Excel および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ※ その他の製品名および社名は各社の登録商標または商標です。
- ※ 製品の仕様は性能向上のため予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

IOWebDOC IOCELA Manual

初版 : September 30, 2008

第2版 : June 23, 2009

Copyright(C) YSS CO.,LTD.

TEL: 044-211-9332

URL: <http://www.iothe.co.jp/>